



SEABORG
1200MJ

取扱説明書

目次

安全上のご注意	1~7
---------	-----

電源について	8,9
電源とのつなぎ方	8
電源について	9
バッテリーチェック表示について	9

お手入れ方法	10,11
リールのお手入れについて	10
お手入れ方法	10
コード取扱い上のご注意	11
コードのお手入れのしかた	11
その他お手入れ上のご注意	11

各部の名称と機能	12,13
----------	-------

スイッチの名称と働き	14
------------	----

機能設定の基本操作	15~44
-----------	-------

1.メニュー画面の使い方	15,16
便利機能の設定のしかた	15,16
2.道糸入力	17~26
P1 糸長入力	17~19
P2 下巻入力	20~23
P3 引出入力	24~26
3.サブカウンター	27~29
底からカウンター	27
巻上速度表示	28
巻上残り時間表示	29
4.釣りを始める前に	30
水面ゼロ設定	30
道糸が切れてしまったら	30
5.船べり停止	31,32
えらべる船べり自動停止	31,32
6.チョイ巻き/チョイ止め	33
7.シャクリ	34~36
8.コマセタイマー	37
9.タイマー巻上	38
10.水深補正	39
11.実釣来歴	40
12.ロッドクランプ装着方法	41
13.ハンドルノブの取り外し方	42

14.その他の便利機能	43,44
いろいろアラーム	43
アラームON・OFF選択	43
ドラッグ音ON・OFF選択	43
Language(言語)選択	43
単位選択	44
カウンターランプ	44
ブレーカー作動表示	44

仕様一覧	45
リール仕様一覧	45
カウンター部仕様	45

展開図	46
-----	----

故障かな?と考える前に	47
-------------	----

ライン入力方法一覧

このリールは下記の方法で入力できます。

P1 糸長入力 17~19	巻く糸の全長がわかっている時に便利な方法。
P2 下巻入力 20~23	下巻きを入れる時の入力方法。ただし、長さのわかる道糸100M以上が必要です。
P3 引出入力 24~26	道糸を巻き終った状態から引き出して再入力するための方法です。ただし、長さのわかる道糸100M以上が必要です。

この度は、シーボーグ1200MJをお買上げいただきまして、誠にありがとうございます。船釣りに便利な機能が多く搭載されているこの電動リールを正しくご使用いただくために、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。またリール同様、この説明書も大切に保存していただきますようお願い申し上げます。

安全上のご注意

電動リールをご使用にあたり注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。

●マークについて

 この記号は「してはいけないこと」を意味しています。
この記号の中や近くに、具体的な禁止内容を表示します。

 この記号は「注意すべきこと」を意味しています。
この記号の中や近くに、具体的な注意内容を表示します。

 この記号は「しなければならないこと」を意味しています。
この記号の中に、具体的な指示内容を表示します。

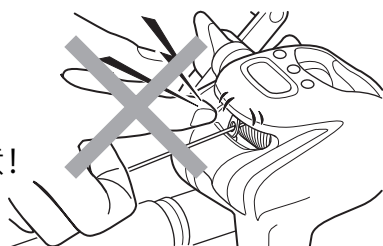
警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、生命に関わる障害・重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 糸をスプールに平行巻きにするレベルwindと本体の間に指をはさまれないようご注意ください。けがをする恐れがあります。



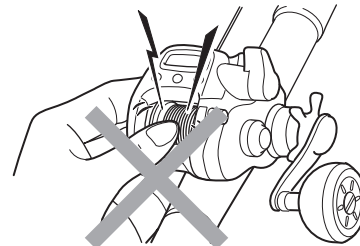
接触注意!



- 糸送り(モーター作動)中にクラッチをONにすると糸を巻き込みます。その際は指をはさまれないよう注意してください。けがをする恐れがあります。



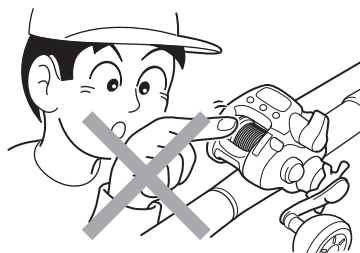
接触注意!



- お子さまが使用する時は、回転部やスキマに手をはさまれないよう、付き添いの保護者の方は十分ご注意ください。



取扱注意!



- 幼児の手の届く所では保管、使用はしないでください。



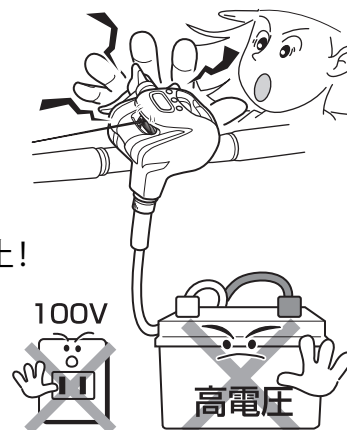
保管注意!



- バッテリー、船電源などを使用する場合は、所定電圧以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが異常発熱し、手をヤケドしたり、ICが故障したりする恐れがあります。家庭用(交流)電源にはつながないでください。回路がショートし発煙・発火する場合があります。



使用の禁止!



安全上のご注意

⚠ 警 告

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、生命に関わる障害・重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 電動リールを使用されますと微弱な電波が発生し、補聴器・ペースメーカー等の医療機器が誤作動したりするなど影響を与える場合があります。特に心臓ペースメーカーをご使用されている方が電動リールを使用されますと、動悸、目まいが起こる場合がありますので、本製品のご使用前に必ず当該各医用電気機器メーカー、もしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。



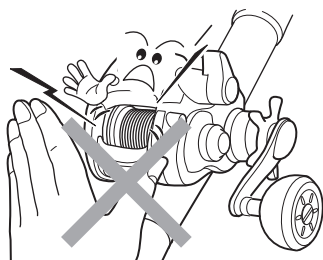
- ハーネスなどで電動リールを体に固定するのはおやめください。
大きな魚により、海水へ引き込まれるなど、生命身体に危害が及ぶ恐れがあります。



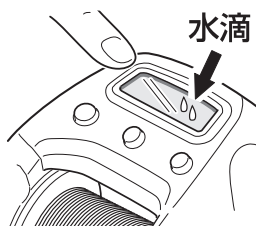
⚠ 注 意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、けがや物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

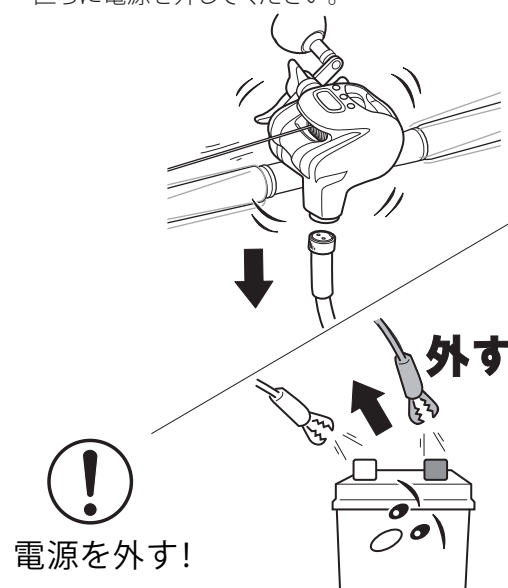
- 駆動しているとき、駆動部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



- 液晶中に水滴が見られる場合、モーターの回り放しなどICが故障して異常動作をすることがあります。すぐにご使用をやめて修理にお出ください。



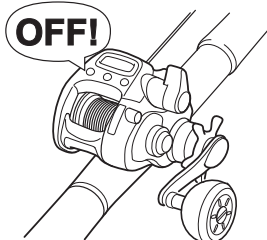
- 何らかの異常で釣りの最中にモーターが回り放しになった場合は、指をはさまれない様、注意して、直ちに電源を外してください。



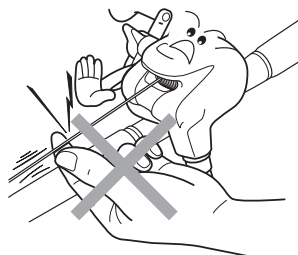
⚠ 注 意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、けがや物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

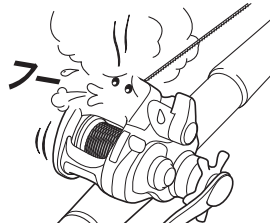
- ドラグ力を設定する際は、必ずその前に、電動自動巻き上げをOFFにしてください。手で糸を引いてセットする場合等で、糸で手を切る恐れがあります。



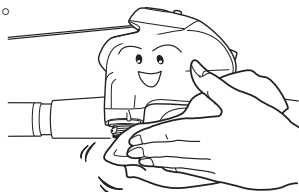
- 糸が勢よく出ているとき、または、糸を巻いているときに、糸をつかまないでください。糸で指を切ることがあります。



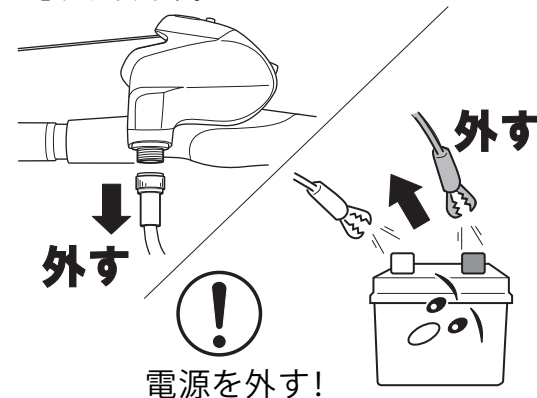
- 屋内で糸を巻くときは、高速で行ってください。低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に発熱し発煙する恐れがあります。また、電動巻き上げ性能が低下することがあります。



- 船上でコードの再接続をするときは、接続部に海水などの水分が付着していることがありますので、乾いた布でよく拭き取ってから、接続してください。そのまま接続すると、ショートして、感電・発煙・発火の恐れがあります。



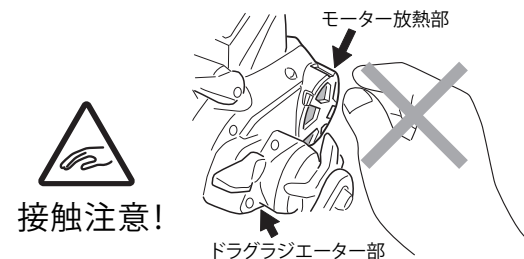
- お手入れの際は、駆動を停止して、電源を抜いてから行ってください。不意に駆動して、けがをする恐れがあります。



- 使用状況や保管状況によって、コードが断線、ショートなどの故障を起こし、発煙・発火に至る場合があります。『コード取り扱い上のご注意』、『コードのお手入れのしかた』、『その他お手入れ上のご注意』を必ずお守りください。なお、コードの手入れは、電源を外してから行ってください。古いコードは断線、ショート等故障の原因となりますので、リールの性能を維持するためにも、2年での交換をおすすめ致します。



- モーター放熱部およびドラグラジエーター部には、手を触れない様ご注意ください。高温になる場合があります、やけどの恐れがあります。



安全上のご注意

⚠ 注 意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、けがや物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 根掛かりしたときは、竿をあおらず糸を手にとって切るようにしてください。(手袋やタオルで必ず手を保護しましょう。)

太いハリスをご使用になっている場合、手で持って切れそうもないと思われるときは、船長に相談して安全に対処してください。



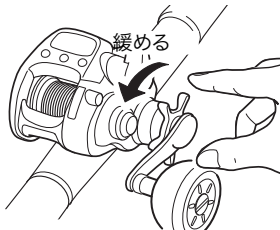
けがに注意!



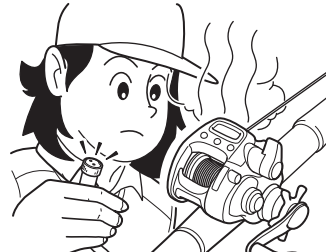
- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分に緩めてから接続してください。
！故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。



取扱の実施!



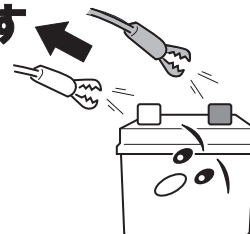
- こげくさい時や漏電など、異常時には直ちに駆動を停止して、電源を外してください。発熱や発火・感電などの原因になります。



外す



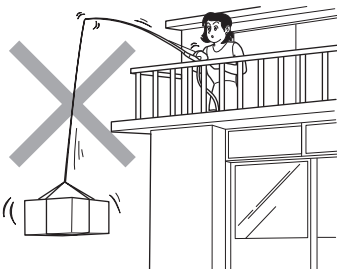
電源を外す!



- リールを釣り以外の目的で使
用しないでください。



目的以外の
使用禁止!



- リールの回転部にはグリスや油が付いています
ので、服を汚さないように注意してください。



取扱注意!



- 塗装やメッキなどの表面層あるいは素材の表面
が剥れた場合は、その部分に触れないでくださ
い。けがをする恐れがあります。



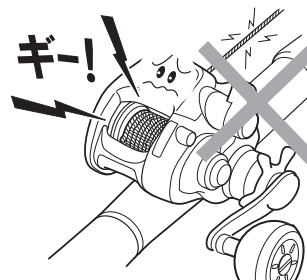
接触禁止!



- ワイヤーは、道糸として使用しないでください。ス
プールが腐食したり、破損したりすることがありま
す。



使用の禁止!



⚠ 注 意

記載事項を無視して、誤った取り扱いをすると、けがや物的損害を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 他の釣り人と仕掛けが絡んだり、根掛かりしたときは、無理に巻かないでください。竿その他を破損する恐れがあります。



取扱注意!



- 分解・改良などはしないでください。リールの性能に不具合が生じたり、故障につながる原因となります。



改造の禁止!



- コードの改造はしないでください。ショートなどの故障を起こし、発煙・発火の恐れがあります。



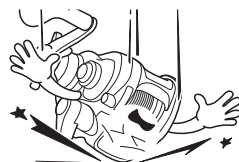
改造の禁止!



- 落下などのショックにより破損あるいは内部電子部品の損傷、クラックによる浸水、基板短絡が生じ機能障害を起こします。強い衝撃や重圧が加わらないようご注意ください。(外観上には異常が見られなくても故障していることがあります。)



取扱注意!



- 使用中で、カウンター表示がずれてきたり、道糸が切れたり、電源が外れたり、大きな張力変動があったりしたときは、カウンター表示の再設定を行ってください。そのまま再度使用しようとすると、巻き込んで竿その他を破損する恐れがあります。水面に仕掛けがある位置でのリセットを忘れた場合も同様のことが起こる恐れがあります。



操作の実施!



取扱上のご注意

電動リールの取扱いで特に注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。

■マグシールド

「マグシールド」は磁性を持つ液体を利用することで、磁性を持つ液体の壁を作り、水の浸入をシャットアウトする画期的構造。滑らかな回転はそのままに、水、異物の侵入を抑えることで初期回転性能を長期間持続。イヤな塩ガミがなくなることで、長期間使用時の回転低下や異音を改善し、耐久性が大幅に向上。

■マグシールドボールベアリング

独自の技術により、ボールベアリングそのものをマグシールド化。磁性を持つ液体の壁によって、ボールベアリング内部への水、異物の侵入を抑えることで、ボールベアリング自体の錆、塩ガミ、異音を大幅に解消。



注意

- マグシールドボールベアリングそのものへの注油は絶対におやめください。マグシールド機能を損ないます。
- 分解作業は絶対におやめください。マグシールド機能を損ないます。



注意

- マグシールドボールベアリングの優れた防錆・防塵性能は、内部に封入された磁性を持つ液体(マグオイル)の壁により維持されています。
- マグオイルはやや多めに封入されている為、ボールベアリングの表面にマグオイルがしみ出ることがありますが、性能には影響ありません。(表面のしみ出たオイルは拭き取らないでください。)
- マグシールドボールベアリングを指や、布、綿棒等で触れたり、拭いたりすることは絶対におやめください。マグオイルが拭き取られることにより、マグシールド機能を損なう恐れがあります。

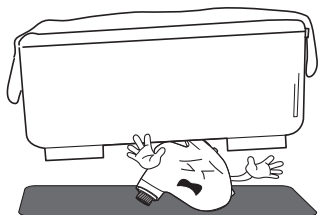
安全上のご注意

取扱上のご注意

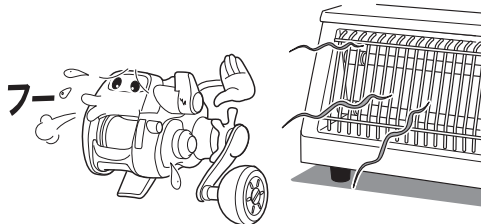
電動リールの取扱いで特に注意していただきたい大切なことが記載されています。ご使用前に必ず、お読みいただくようお願い致します。

⚠️ お願い

- リールの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。



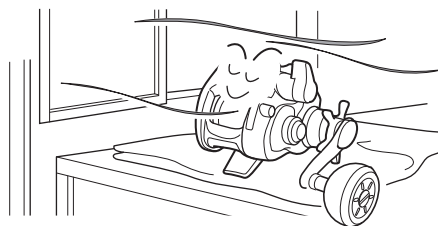
- 発熱器具のそばに置かないでください。樹脂が溶けて変形したり劣化して、故障の原因になります。



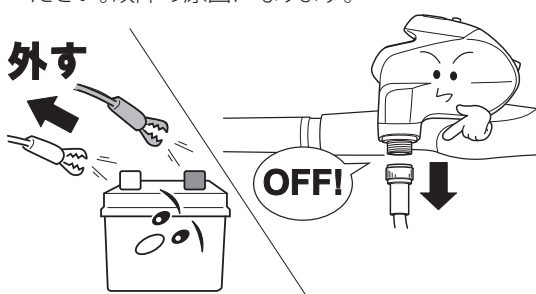
- スプールとフレームのスキマやその他本体のスキマに棒や金属物などを入れないでください。故障の原因になります。



- リールを長期間収納するときは、水分を完全に切り、直射日光を避けなるべく通風性のよい場所に保管してください。また、ドラグを緩めた状態で保管してください。



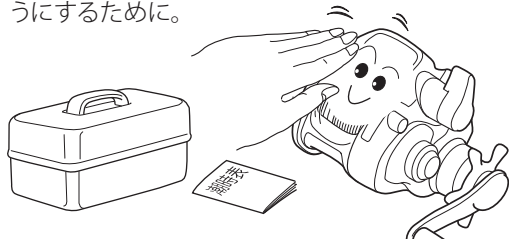
- 電源を外すときは、駆動を停止してから、行ってください。故障の原因になります。



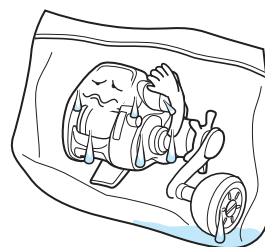
- 塩分を含んだ海水で道糸が湿った状態のまま保管するとスプールが腐食する恐れがあります。水道水を糸巻き部にあたるように掛けて海水を十分流してから通気性の良い直射日光のあたらない場所で乾燥させてから保管してください。



- 釣りにお出かけの前には、リールの点検（動作点検）を行ってください。故障によって、釣行に支障をきたすことのないようにするために。



- 濡れたままビニール袋やバケツなどで、リールを保管しないでください。錆や故障の原因になります。

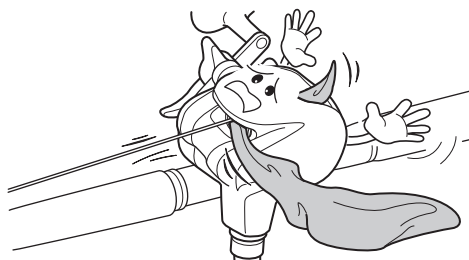


⚠️ お願い

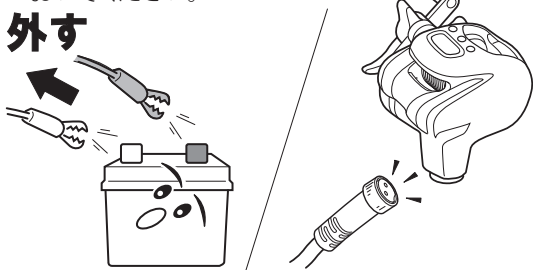
- 電動リールを洗剤で洗うときは、中性洗剤を薄めて使用してください。塩素系、酸性及びアルコール系洗剤は使用しないでください。樹脂が劣化して、故障の原因になります。



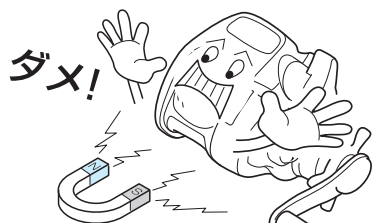
- 糸巻き中に布などが巻き込まれないように、ご注意ください。
また、バックラッシュ等によりフケた糸の巻き込みにもご注意ください。



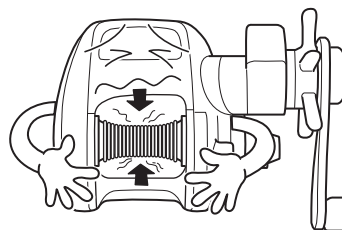
- リールを使用しないときは、電源・コードを外しておいてください。



- 磁石等磁力のある物は近づけないでください。誤動作や故障の原因になります。



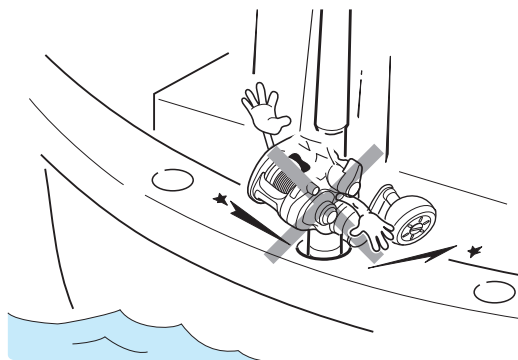
- 水気を含んだ糸を強い張力で巻いた状態でリールを保管しないでください。保管時に糸が乾燥すると縮み、スプールを破損する恐れがあります。特に、PE専用機種には、ナイロン・フロロラインなどを巻かないでください。



- 振り出しロッドを仕舞い込む際に、リールをつけたまま竿尻を床面等にトントン叩いて仕舞わないでください。リールが破損する恐れがあります。



- 船ベリの穴へ竿にリールをつけたまま入れる場合は、船ベりにリールが直接当たらないか確認してください。当る場合は、穴へ入れることはおやめください。リールを破損する恐れがあります。



◆カウンター部について

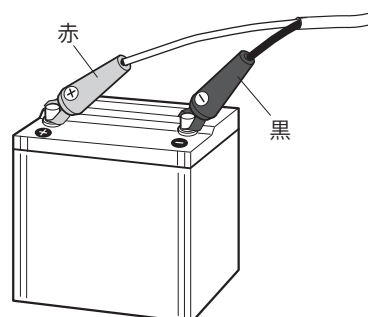
- ① 偏光ガラスの使用
- ② 真冬（カウンターの表面温度-10℃以下）および真夏（カウンターの表面温度60℃以上）
※上記の場合には、液晶の特性上文字が見にくくなることがございます。ご了承ください。
- ③ 早朝や夕方など太陽光の入射角によって液晶表示の影が見えることがありますが異常ではありません。

電源について

●電源とのつなぎ方

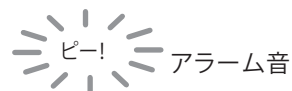
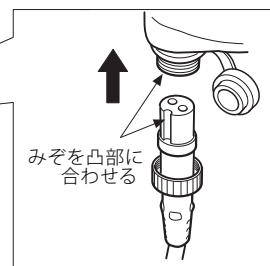
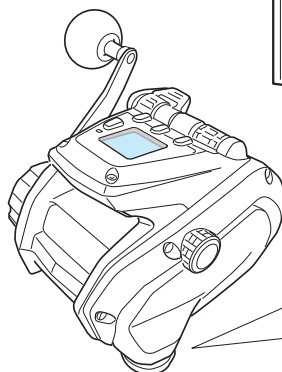
1.まず、コードのクリップ(2つ)と電源をつないでください。

クリップは赤いカバーのほうプラス $+$ 、黒いカバーのほうがマイナス $-$ です。

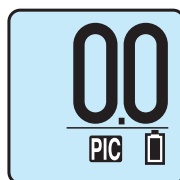


2.次に、付属コードのコンネクターとリール本体をつないでください。

※以上の手順が正しく行なわれると、下図のように表示変化したうえで、セットされます。



(電源投入画面)



(水深画面)



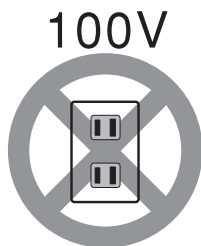
注意

・1度電源につなぐと、メモリーバックアップ(カウンター情報の保存)機能が働くため(最低15分間)、その後の電源との再接続時には、上記の表示変化がされないでセットが完了するケースがありますが、問題はありません。

●電源について

このリールは直流 (DC) 12V対応の電動リールです。指定外の電源 (たとえば、家庭用の交流 (AC) 100V、船装備の直流24Vなど) では使用できません。

なお、船電源は、発電機や配線の関係で電圧が不安定になりやすく、リールの保護回路が働いて回転が停止したり、断続的になってしまうことがあります。リールの性能を十分に発揮させるためにも、電動リール専用バッテリーをご使用ください。



注意

※出発前によく確かめてください。

1. バッテリーは、長時間放置されると自然放電 (残量低下) している可能性があります。釣行前には、必ず充電を行なってください。

2. 船の電源は、電圧、接続端子の形状などにより使用できないことがあります。事前にご確認することをおすすめします。

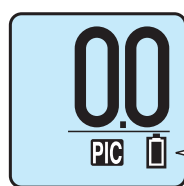
・端子のサビなどによりリールが正常に作動しない場合があります。サビなどは取り除いてご使用ください。

●バッテリーチェック表示について

通電時に、電源電圧が低下すると、下記のようなバッテリーチェックマークが表示されます。

10V以下では巻き上げ出力が制限され、最大限発揮できないことがあります。

モーター回転がストップしているときにこの表示が点滅している場合、バッテリー残量の減少による電圧低下が考えられます。そのときには、バッテリーを充電したものと交換してください。(船電源をご使用の場合は、電源の電圧や端子をチェックしてください。)



バッテリーチェックマーク

満電池マーク表示



11V以上

半電池マーク表示



10V~11V

低電圧マーク点滅表示



10V未満

※リールの検知電圧は、実際の電源電圧と多少誤差がある場合があります。

※バッテリーが切れカウンター表示が消えた状態で (魚とのやりとり等で) 手巻きで糸を巻くと水深カウンターが狂い、次のバッテリーで電動巻き上げた時に糸を巻き込み、竿先を折る可能性がありますのでおやめください。カウンターが消えたら、そのままの状態でのバッテリーを交換してください。

お手入れ方法

●リールのお手入れについて

このリールは水洗いできる「洗える電動リール」です。釣りが終わった後で汚れなどをきれいに洗い流してください。

●お手入れ方法

1. 中性洗剤を含ませた、柔らかいスポンジなどでリール本体を洗い、汚れを落とします。

※汚れがひどい場合に使う洗剤は、中性洗剤のみを薄めて使用してください。

推奨洗剤：リール用洗剤 爽快釣行リールウォッシュ
(商品コード:04920379)

※使用量目安：水1ℓに対して1.5mℓ

液体（薬用）石鹼など石鹼類及び弱アルカリ性など中性以外の洗剤のご使用はおやめください。故障の原因になることがあります。

2. 水をかけて洗剤と汚れをよく落としてください。スプール部にもよく水をかけて塩分を落としてください。

給湯器をご使用の際は、温度設定を30℃以下としてください。

3. よく水を切り、陰干してください。

※保管の際は、ドラグを緩めてください。

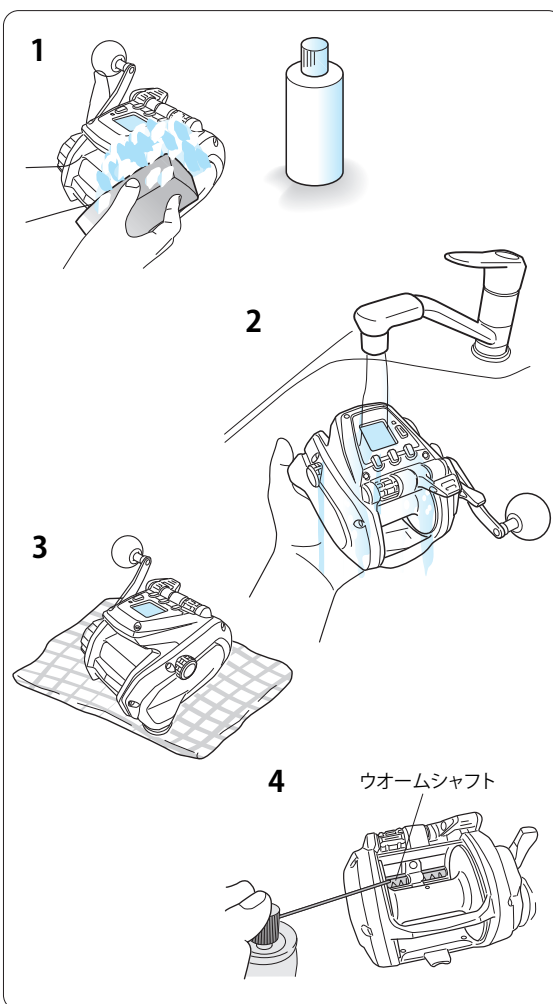
※ハンドルノブ内部には水がたまりやすいため、特に注意して水切りをしてください。

4. 注油してください。

ウォームシャフト部へシュッとひと吹き注油します。

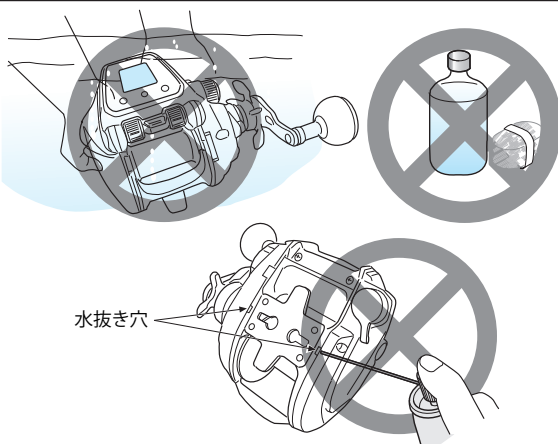
※推奨グリス：純正リールガードグリス
(商品コード:04980020)

専用スプレーは釣具店にてお取り寄せください。



⚠ 注意

- ・海水で洗ったり、水の中につけて洗うことは絶対にしないでください。
- ・ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- ・リール本体に傷が付きますので、みがき粉、タワシ、スチールタワシなどは絶対に使用しないでください。
- ・注油したオイルがはね返り噴き出す可能性もあるので、のぞき込まないでください。
- ・水抜き穴への注油は、絶対にしないでください。
- ・本体に磁力を近づけないでください。



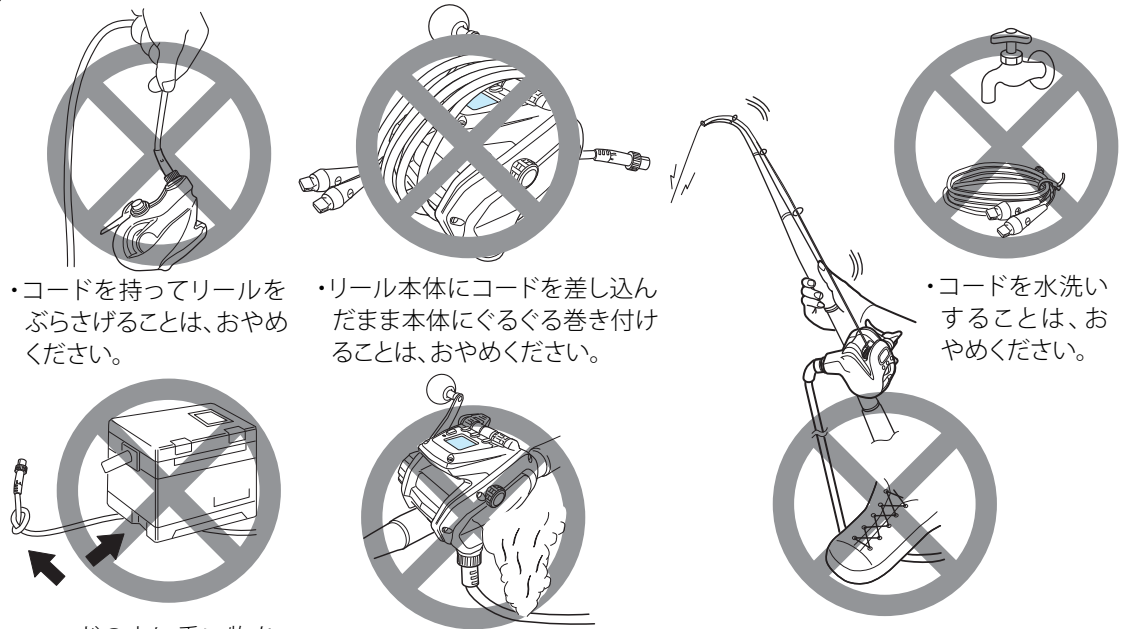
●コード取扱い上のご注意

コードの断線等によるトラブルをさけるために必ず守ってください。

付属の専用コードをご使用ください。

※他のコードとは互換性がないのでご注意ください。

※コードを改造することはおやめください。思わぬ故障の原因となります。コードは大切にしてください。



- ・コードを持ってリールをぶらさげることは、おやめください。
- ・リール本体にコードを差し込んだまま本体にぐるぐる巻き付けることは、おやめください。
- ・コードを水洗いすることは、おやめください。
- ・コードの上に重い物を乗せたり、コードを結んでしまうような行為は、おやめください。
- ・煙や異臭などの異常が発生した場合、ただちに使用を中止し、バッテリーから外してください。
- ・ご使用の際、コードを足で踏んだり、荷物などに引っ掛かったままアワセ動作などで強く引っ張ると、外観に異常はなくても内部の電線が切れる可能性があります。

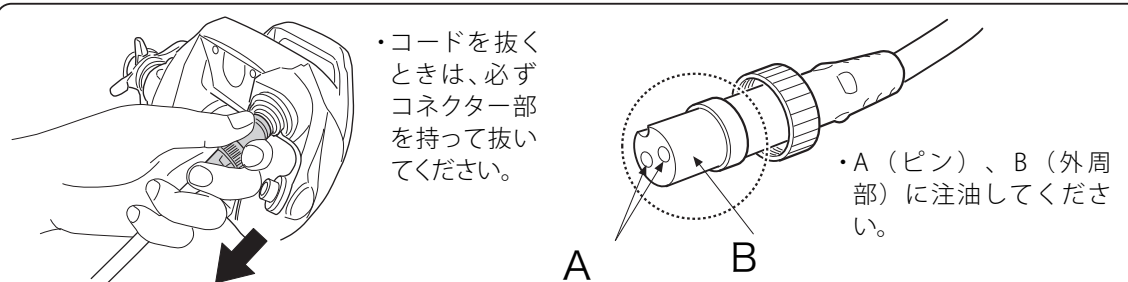
●コードのお手入れのしかた

・ご使用後は、水道水または温湯で浸した柔らかい布で、外観部の汚れを拭き取り、よく乾かしてください。

・特に、ワニグチクリップは、カバーを外して、完全に乾かしてください。

・乾燥後は、コネクター部の注油を行なってください。

・リールのコードは、本体から外して保管してください。



- ・コードを抜くときは、必ずコネクター部を持って抜いてください。
- ・A（ピン）、B（外周部）に注油してください。

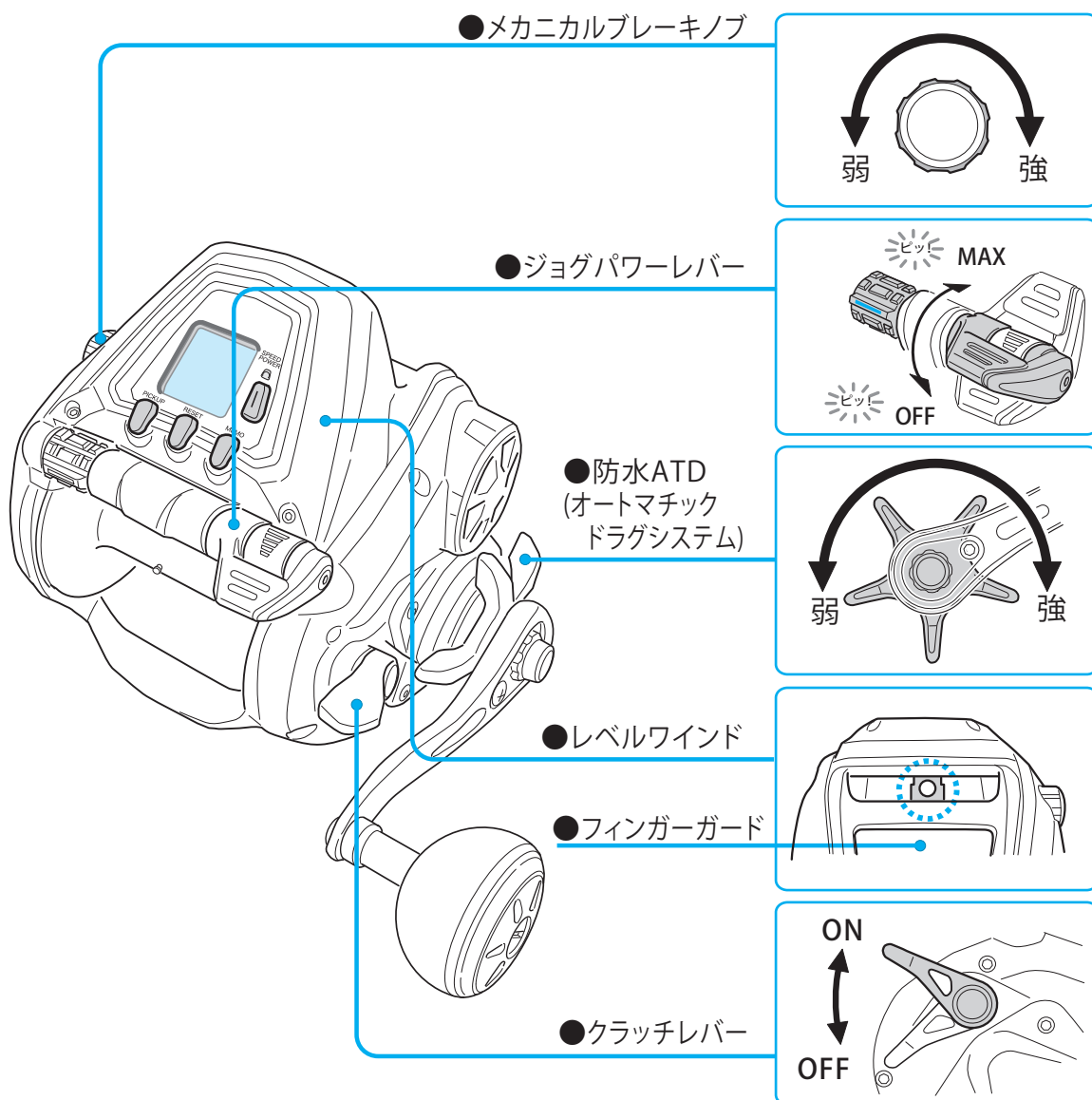
●その他お手入れ上のご注意

・このリールは電気回路、モーターなどの精密な部品を内蔵しておりますので、お客さまご自身の分解組み立ては極めて困難です。おやめください。

・コネクター部保護のため、リールをご使用にならないときは防護用コネクターキャップでフタをしてください。

・古いコードは断線、ショート等故障の原因となりますので、リールの性能を維持するためにも、2年での交換をおすすめ致します。

各部の名称と機能



●付属品



リールバッグ



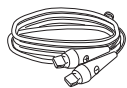
アクセスガイド



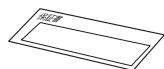
ワーニングリスト



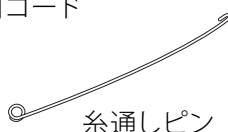
専用工具



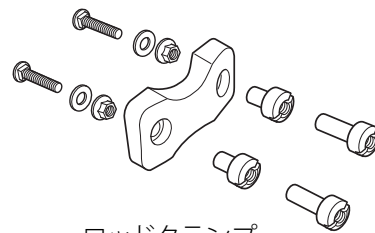
専用コード



保証書
(日本モデルのみ付属)



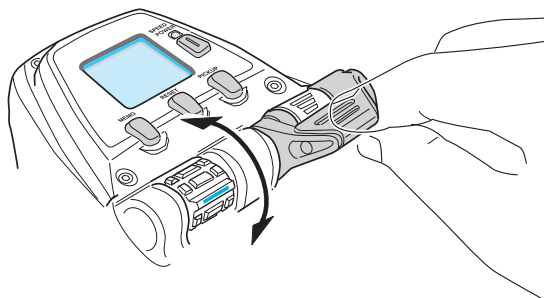
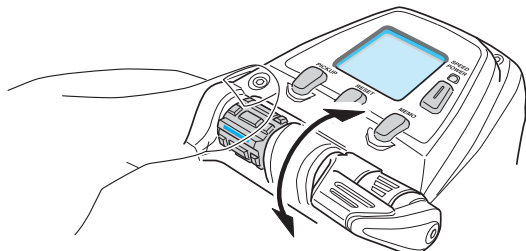
糸通しピン



ロッドクランプ

●ジョグパワーレバー

- 右のレバーは、親指と人差し指でつまんで操作ができます。
- 左のレバーは、親指で転がして操作ができます。



- レバー操作により巻上げ出力（パワー/スピード）をOFF～MAXまで自由自在に変速させることができます。
- レバーを前（MAX側）に倒すと、出力がアップします。
レバーを元（OFF側）に戻せば、出力がダウンします。
- 巻上げを開始するとき、レバーがOFFの位置にないときは、レバーを一度OFFの位置まで戻して（OFFの位置でアラームが鳴ります）から、レバーを前に倒して巻上げを開始してください。
- 船べり停止位置付近では、安全のためレバー操作がきかない場合があります。
- 巻き上げ負荷の変動等で、レバーの設定表示が上下する時がありますが、異常ではありません。

●防水ATD(オートマチックドラグシステム) ※ドラグクリック付き

- スタードラグの締め付けを調節することにより、魚の急激な引きに対応し、スプールが空転して糸切れを防ぐ機構です。
1. リールをロッドにセットし、ラインをロッドのガイドに通してから調節してください。
 2. クラッチONの状態、手で糸を引き出しながらドラグの締め付けを調節します。通常は、糸（ハリス）が切れる寸前にスプールが空転するように調節します。

●クラッチレバー

- クラッチONの時、レバーを押すとクラッチがOFFになります。
- ロッドを持っている手で素早くクラッチがONできます。

●メカニカルブレーキノブ

- 仕掛けの落下スピードを調節し、バックラッシュを防止します。船の揺れや仕掛けの重さなどにより、締め付け具合を調節してください。

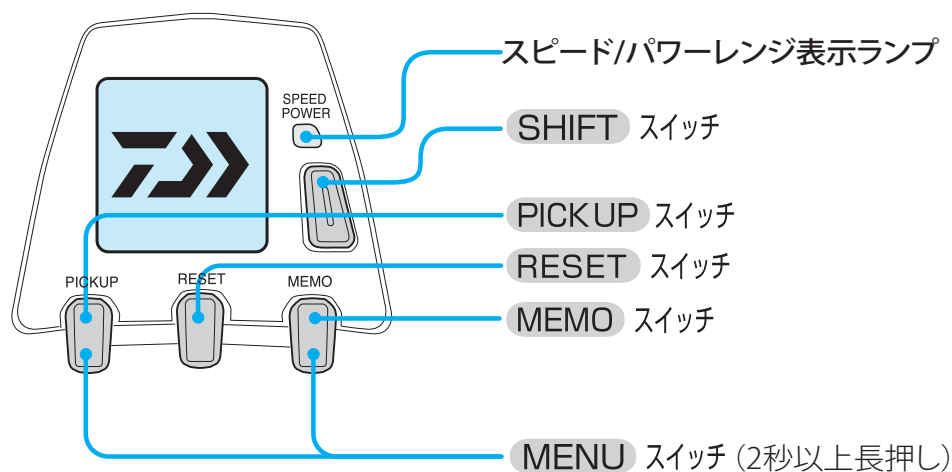
●レベルワインド

- ガイドに糸を通します。糸がスプールに平行に巻けます。
- ※糸を巻く際の条件により、スプールへの糸巻き状態に若干の片寄りが見られる場合があります。

●付属品

- 専用コード
- リールバッグ
- 専用工具
- ロッドクランプ
- アクセスガイド
- ワーニングリスト
- 保証書（日本モデルのみ付属）
- 糸通しピン

スイッチの名称と働き



●RESET

- 釣りを始める前に必ず一度 **RESET** スイッチを押してください。スイッチを押した点を基準に船べり停止点が設定されます。
- 長押しで糸切れ時のデータ修正ができます。

●MEMO

- 底からカウンターのリセットやコマセタイマーの再スタートに使用します。
- 長押しで船べり停止点の設定ができます。
- メニュー内では **OK** スイッチとなります。

●PICKUP

- チョイ巻・止やシャクリに使用します。
- メニュー内では **戻る** (戻る) スイッチとなります。

●MENU

- **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒以上押すと各種便利機能の設定画面となります。

●SHIFT

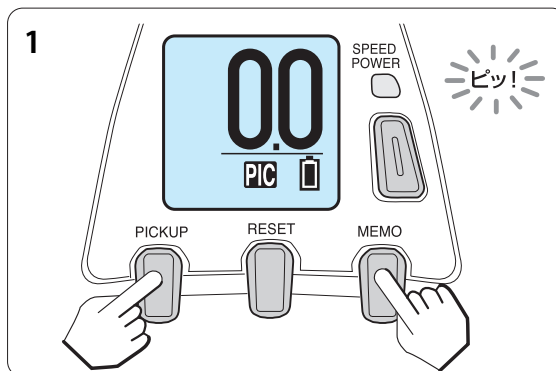
- スピードレンジ/パワーレンジをシフトできます。
- スピードレンジの場合は緑色のランプが点灯し、パワーレンジの場合は赤色のランプが点灯します。

機能設定の基本操作「1.メニュー画面の使い方」

●便利機能の設定のしかた

・メニューの中には便利な機能が満載されています。
※セットした機能は、次の釣行もメモリーされています。
(設定直後に電源を切った場合、メモリーされない場合があります。)

- 1.表示が **0.0** のときに
MEMO スwitchと **PICKUP** スwitch
を同時に2秒間押し続けてください。

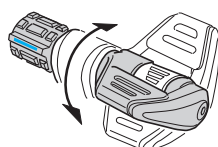


(水深画面)

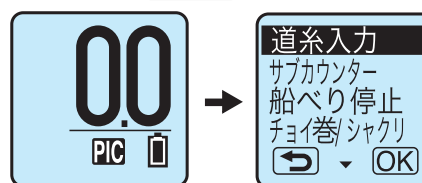
- 2.ジョグパワーレバーで各機能を選択し
OK (**MEMO** スwitch) を押して、各種設定を行います。

※各機能の詳しい設定方法は、下記のページをご確認ください。

ジョグパワーレバー
でメニューを選択



MEMO スwitch+
PICKUP スwitch (長押し)



(水深画面)

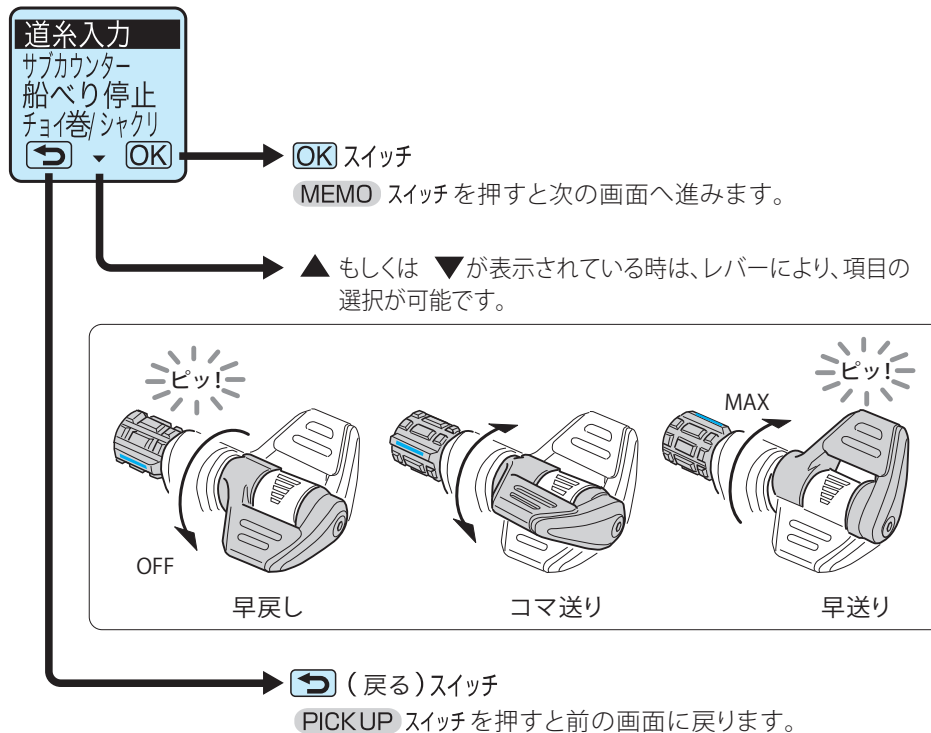
(メニュー画面)

道糸入力	→『P17～26へ』
サブカウンター	→『P27～29へ』
船べり停止	→『P31,32へ』
チョイ巻/シャクリ	→『P33～36へ』
タイマー巻上	→『P38へ』
アラーム音	→『P43へ』
ドラグ音	→『P43へ』
水深補正	→『P39へ』
実釣来歴	→『P40へ』
Language(言語)	→『P43へ』
単位	→『P44へ』

機能設定の基本操作「1.メニュー画面の使い方」

■メニューの操作方法

メニュー画面を例にご説明致します。



3.設定が終了したら、水深画面へ戻り釣りを始めてください。

機能設定の基本操作「2.道系入力」 P1 系長入力

リールに巻く糸の長さがわかっている時に便利な方法です。
(PE10号800mを巻いて入力することを例にしてご説明します。)



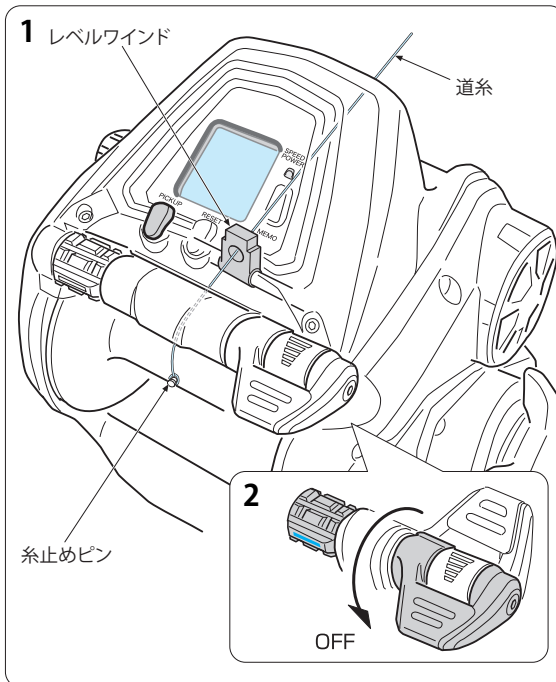
やけどに注意!

道系入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

1.道糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

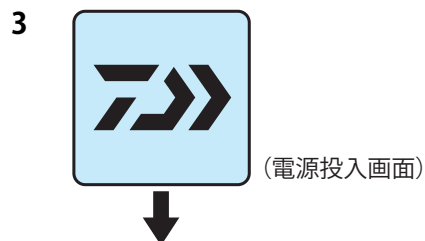
- ※付属の糸通しピン (P.12参照) を使うと簡単に通せます。
- ※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。
- ※ドラグを締め付けてください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。

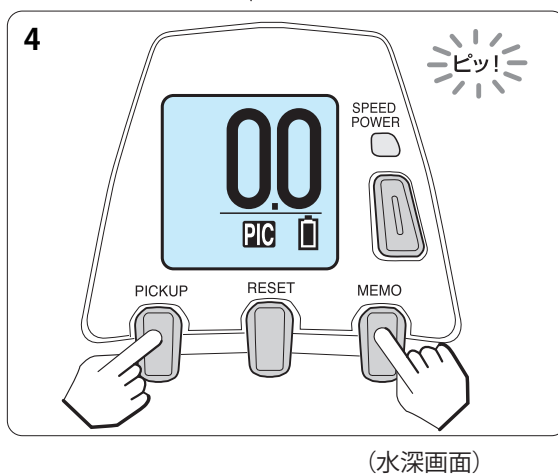


3.リールを通电させてください。

- ※接続方法についてはP.8「電源のつなぎ方」を参照ください。



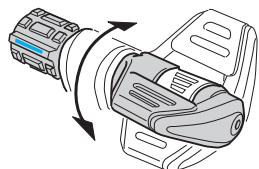
4.表示が 0.0 のときに MEMO スイッチと PICKUP スイッチ を同時に2秒間押し続けてください。



(水深画面)

機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P1 糸長入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (**MEMO** スイッチ) を押します。



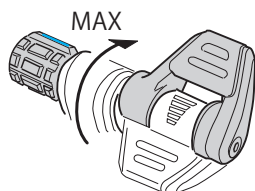
※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

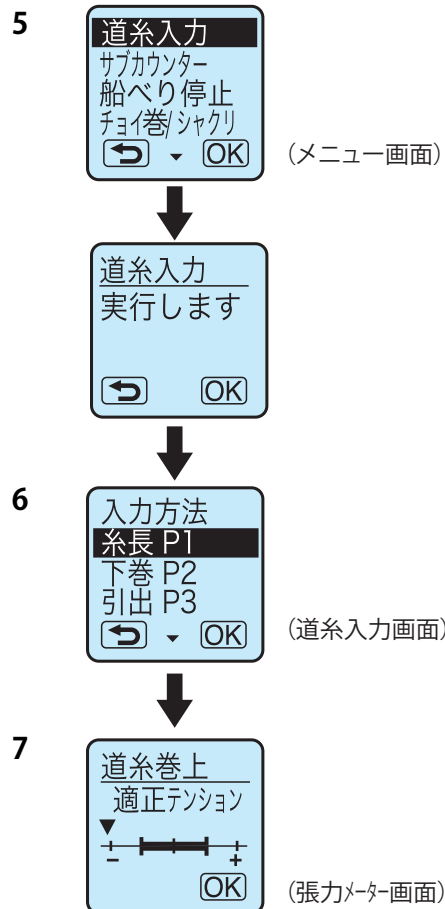
6. 「糸長 P1」を選択し
OK (**MEMO** スイッチ) を押します。

※自動的にスピードレンジに切り変わります。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを
 MAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

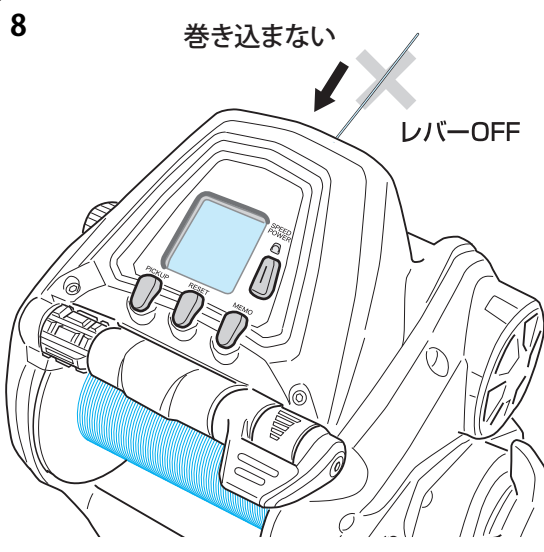
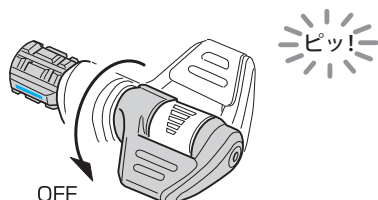


注意

- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。スピードレンジでジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

機能設定の基本操作「2.道系入力」 P1 糸長入力

8.巻き終わったらジョグパワーレバーをOFF位置まで戻し**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

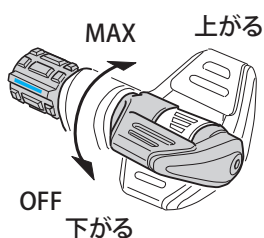


注意

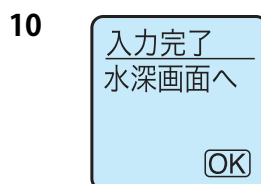
- ・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- ・この入力方法はPE4号未満の細糸は入力することができません。
- ・PE4号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

9.ジョグパワーレバーで、道系の長さを選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

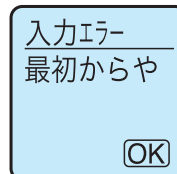
- ※図は、800mにセットした場合です。
- ※初期設定値は、600mです。
- ※セットする数値は、10m単位です。



10.入力完了画面が表示されたら**OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。



- ※入力エラー画面が表示された場合は、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。



機能設定の基本操作「2.道系入力」 P2 下巻入力

長さのわかる道系が100m以上必要です。



やけどに注意!

道系入力の際は、モーターが過熱しフレームが非常に熱くなりますので手で直接フレームを触らないでください。濡らしたタオル等をフレームに当てて入力をお願いします。

1.下巻用の糸をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

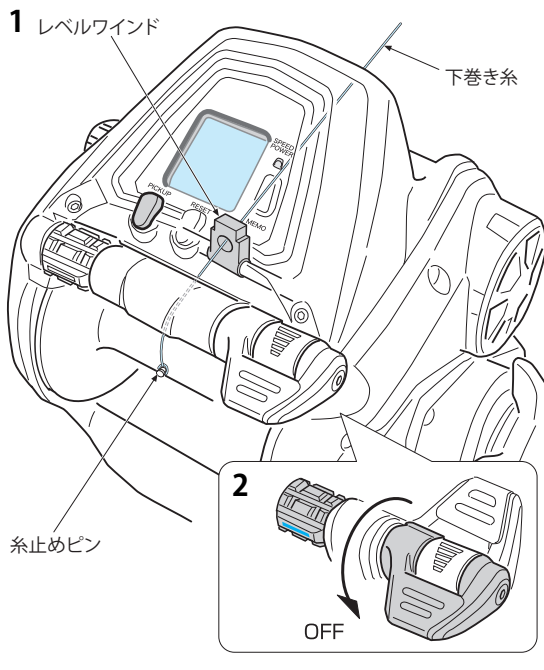
※付属の糸通しピンを使うと簡単に通せます。

※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

※ドラグを締め付けてください。

※既の下巻が完了している場合は、そのまま次へ進んでください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。



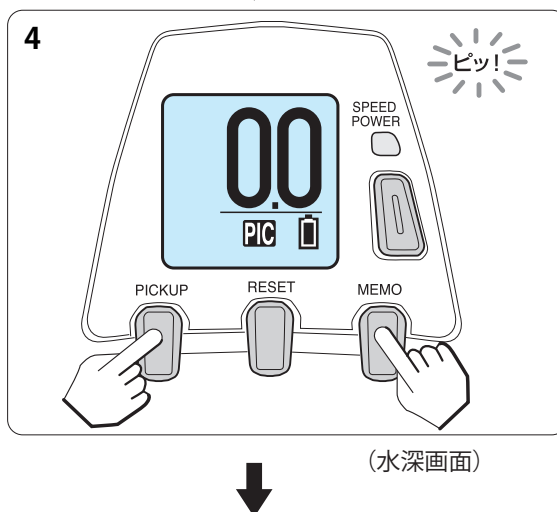
3.リールを通电させてください。

※接続方法についてはP.8「電源のつながり方」を参照ください。



(電源投入画面)

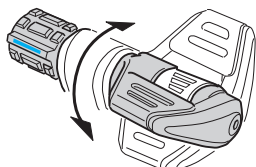
4.表示が 0.0 のときに MEMO スイッチと PICKUP スイッチ を同時に2秒間押し続けてください。



(水深画面)

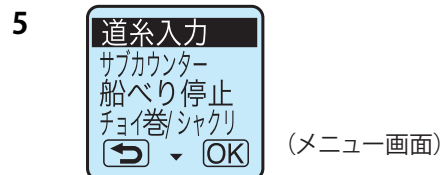
機能設定の基本操作「2.道系入力」 P2 下巻入力

5. ジョグパワーレバーで「道系入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。



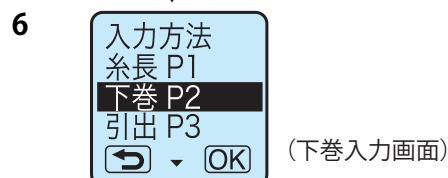
※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび OK (MEMO スイッチ) を押します。



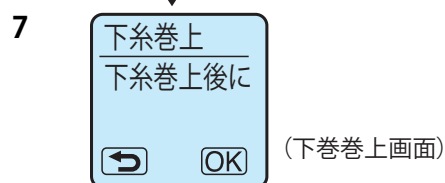
6. 「下巻 P2」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

※自動的にスピードレンジに切り変わります。

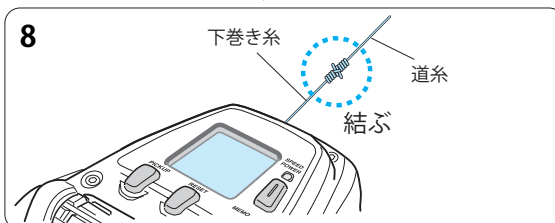


7. 下巻用の糸を巻き、巻き終えたら
OK (MEMO スイッチ) を押します。

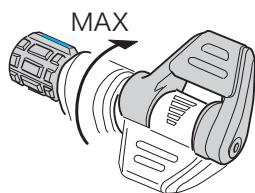
※既に下巻が完了している場合は、そのまま
OK (MEMO スイッチ) を押します。



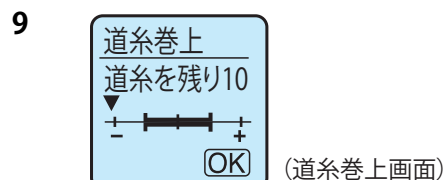
8. 上糸をしっかり結びます。



9. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを
MAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら残り
100mになるまで道糸を巻きます。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンション
を調整してください。

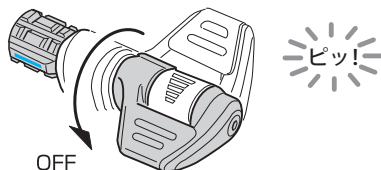


機能設定の基本操作「2.道系入力」 P2 下巻入力

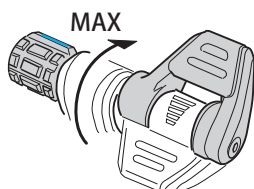


- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。スピードレンジでジョグパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

10. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

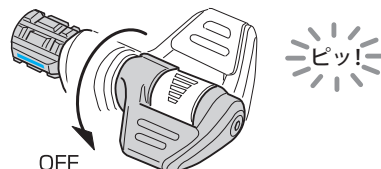


11. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら50m道糸を巻いてください。

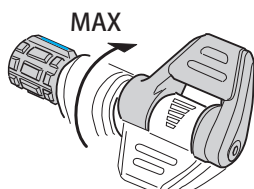


※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

12. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



13. テンションを調整して、ジョグパワーレバーをMAXの位置まで倒し、糸色に注意しながら最後まで道糸を巻いてください。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

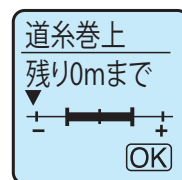
11



(道糸巻上画面)



13



(道糸巻上画面)

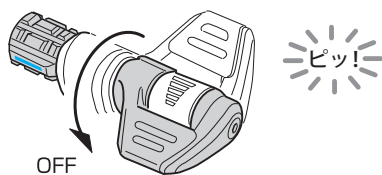


機能設定の基本操作「2.道系入力」 P2 下巻入力



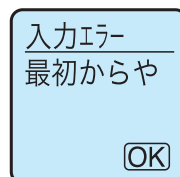
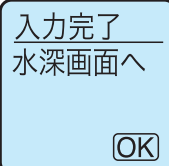
- ・糸を全部巻き込まないようにしてください。手前でジョグパワーレバーをOFFの位置にし、ハンドルで残りのラインを巻いてください。巻き込みますとカウンター誤差の原因になります。
- ・この入力方法はPE4号未満の細糸は入力することができません。
- ・PE4号を巻く場合、スプール外径近くまで巻くと、スプールとフレームの間にPE糸が入り込む恐れがありますので、スプール外径から1mm程度少なめに巻く事をお勧めします。

14. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



15. 入力完了画面が表示されたら **OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、入力を終了します。

15



※入力エラー画面が表示された場合は、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最初からやり直してください。

機能設定の基本操作「2.道系入力」 P3 引出入力

道系を巻き終わった状態から引き出して再入力する時に便利な方法です。ただし長さのわかる道系が100m以上必要です。

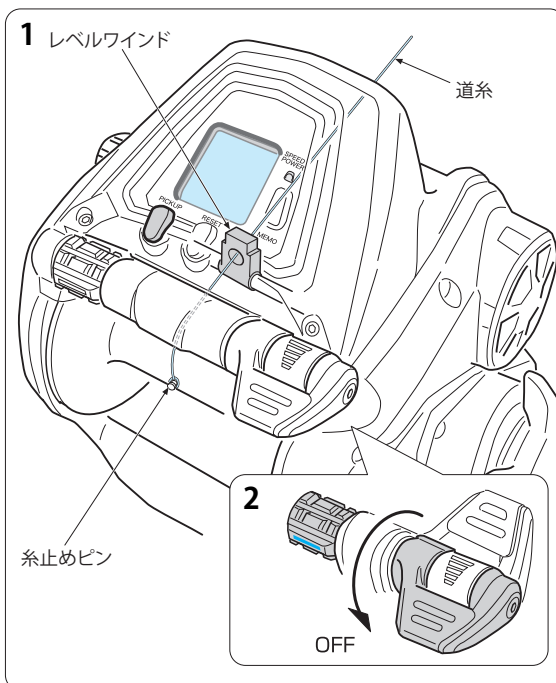
1.道系をレベルワインドに通してスプールに結んでください。

※付属の糸通しピン（P.12参照）を使うと簡単に通せます。

※スプール面での糸滑り防止のため、必ず糸止めピンに糸を結んでください。

※ドラグを締め付けてください。

2.ジョグパワーレバーをOFFまで戻します。

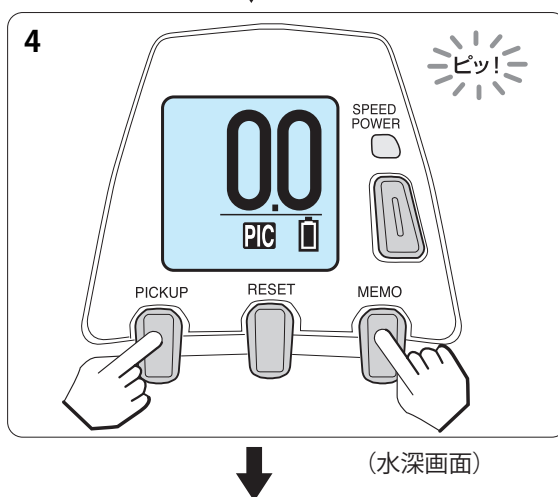


3.リールを通电させてください。

※接続方法についてはP.8「電源のつなぎ方」を参照ください。

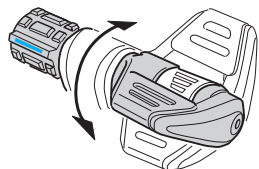


4.表示が 0.0 のときに MEMO スイッチ と PICKUP スイッチ を同時に2秒間押し続けてください。



機能設定の基本操作「2.道糸入力」 P3 引出入力

5. ジョグパワーレバーで「道糸入力」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。



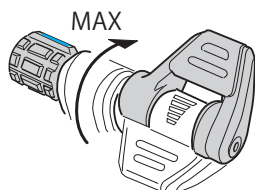
※ジョグパワーレバーを動かすことで選択項目が反転表示されます。

※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、ふたたび OK (MEMO スイッチ) を押します。

6. 「引出 P3」を選択し
OK (MEMO スイッチ) を押します。

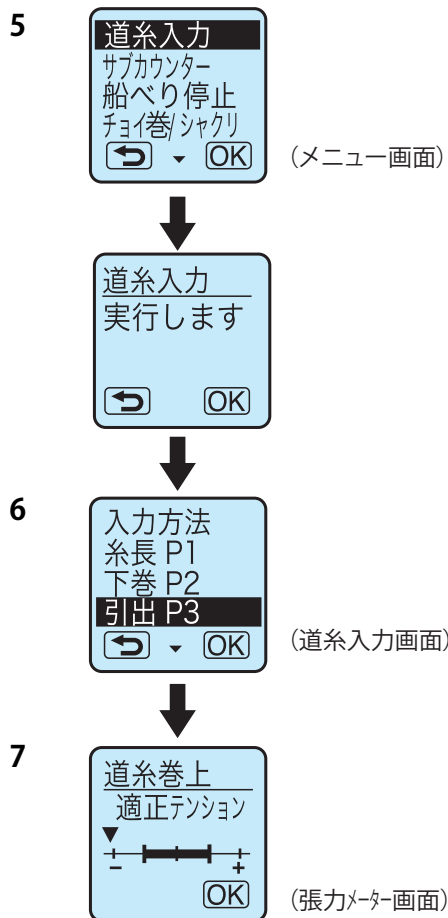
※自動的にスピードレンジに切り変わります。

7. テンションを調整して、ジョグパワーレバーを
MAXの位置まで倒し道糸を巻きます。



※巻上中、▼ になるべく画面中央にくるようにテンションを調整してください。

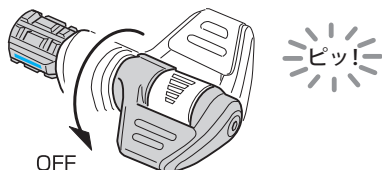
※既に道糸巻上が完了している場合は、そのままを OK (MEMO スイッチ) 押します。



注意

- ・フィンガーガードやフレームに糸があたると、リールが傷つくことがあります。糸があたらないようにご注意ください。
- ・屋内で低速・高テンションで長時間かけて糸を巻くと、モーターが異常に過熱し故障の原因になります。スピードレンジでパワーレバーをMAXにして入力を行ってください。また、実釣時には海水等で冷却されますのでご心配ございません。

8. 巻き終わったらジョグパワーレバーをOFFの位置まで戻し OK (MEMO スイッチ) を押します。



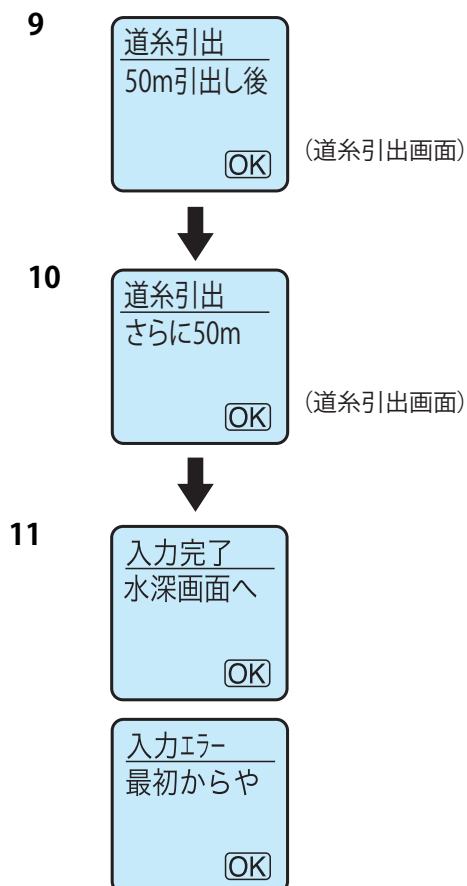
機能設定の基本操作「2.道系入力」 P3 引出入力

9.糸色に注意しながら50m引き出して、
OK (MEMO スイッチ)を押します。

10.糸色に注意しながら50m引き出して、
OK (MEMO スイッチ)を押します。

11.入力完了画面が表示されたら
OK (MEMO スイッチ)を押し、水深画面
へ戻り、引出した糸を巻き取って完了です。

※入力エラー画面が表示された場合は、
OK (MEMO スイッチ) を押し、水深画面へ戻り、最
初からやり直してください。



機能設定の基本操作「3.サブカウンター」

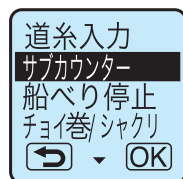
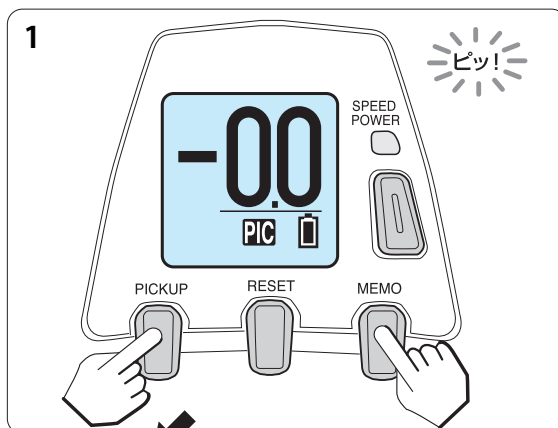
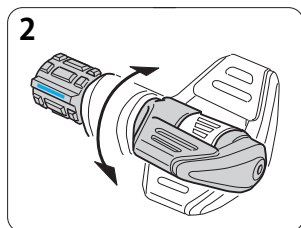
水深カウンターの下にもう一つのカウンターを表示することができます。
表示内容は「底からカウンター」、「巻上速度」、「巻上残り時間」の3つから選択できます。
※初期設定では、サブカウンターは「表示なし」となっています。

●底からカウンター

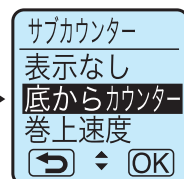
上からも底からも測れる2つのカウンターが棚を両面攻撃。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、さらにジョグパワーレバーで「底からカウンター」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

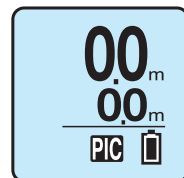


(メニュー画面)



(サブカウンター)

3. 水深カウンターの下に底からカウンターが表示されます。



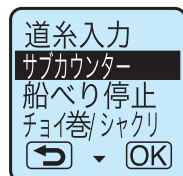
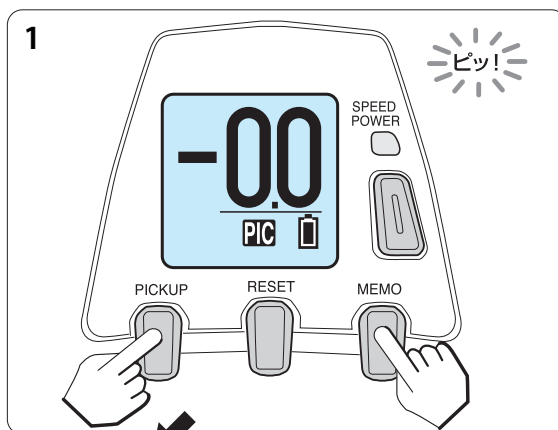
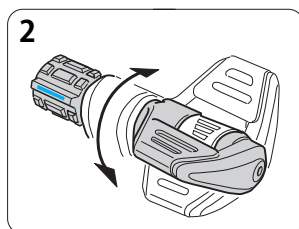
4. 仕掛けを投入して、底や狙いの棚など任意の位置で **MEMO** スイッチを押すことで、底からカウンターが **0.0** になり、その地点を基準にカウンターが動きます。

機能設定の基本操作「3.サブカウンター」

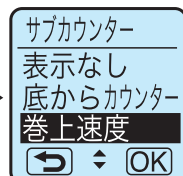
● 巻上速度表示

電動で巻上げた時に巻上スピード実測値を表示します。

1. MEMO スイッチと PICKUP スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
2. ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を選択し OK (MEMO スイッチ) を押し、さらにジョグパワーレバーで「巻上速度」を選択し OK (MEMO スイッチ) を押します。



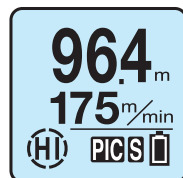
(メニュー画面)



(サブカウンター)

3. 水深カウンターの下に、巻上速度が表示されます。

※ 電動巻上を行なっている時のみ表示されます。



(表示例)

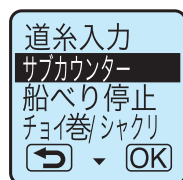
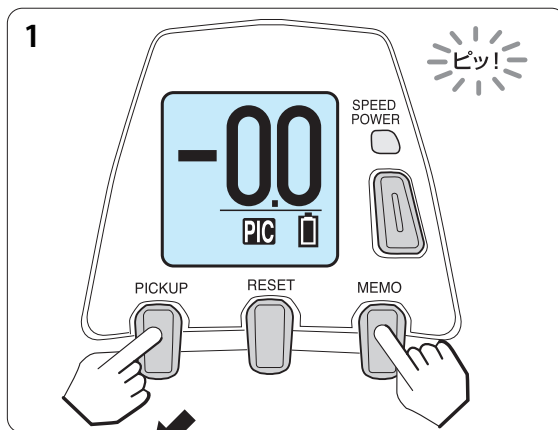
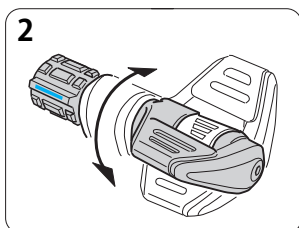
機能設定の基本操作「3.サブカウンター」

●巻上残り時間表示

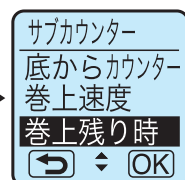
電動巻上中に、船べり停止位置までの残り時間を目安として表示します。
※巻上速度の変動により、誤差が生じる場合があります。

1. MEMO スイッチと PICKUP スイッチ
を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「サブカウンター」を選択し **OK** (MEMO スイッチ) を押し、さらに
ジョグパワーレバーで「巻上残り時間」を選択し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。



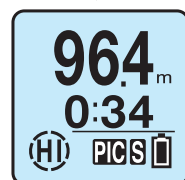
(メニュー画面)



(サブカウンター)

3. 水深カウンターの下に、巻上残り時間が表示
されます。

※電動巻上を行なっている時のみ表示されます。



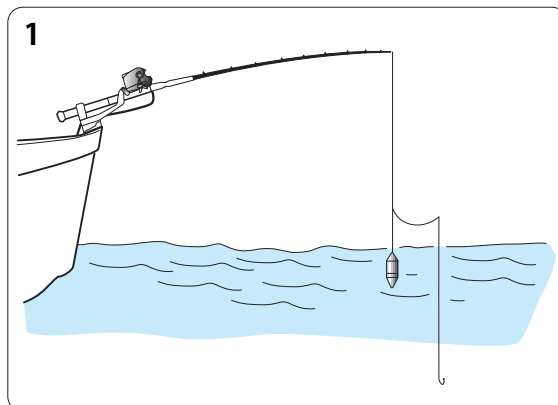
(表示例)

機能設定の基本操作「4.釣りを始める前に」

●水面ゼロ設定

釣りを始める前に必ず行ってください。正確な棚取りが行えます。

- 1.コードをつなぎ、糸を出し、仕掛けをセットします。



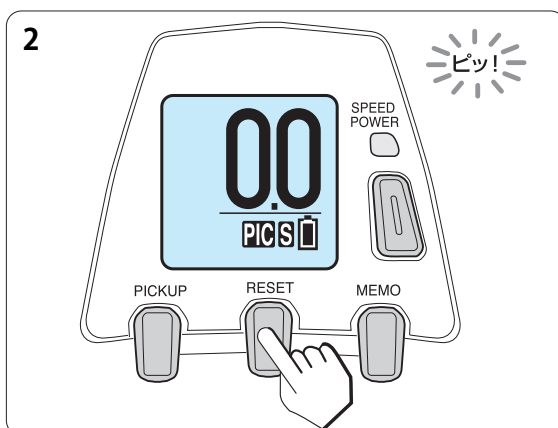
- 2.竿を出し、仕掛けが水面にある時に
RESET スwitchを押します。

表示が **0.0** mになり **S** (船止) が点灯しセット完了です。

電動巻上の際、船べり2m手前で自動停止するようになります。

※水面ゼロ設定をしていない場合は、安全のため、船べり5mで自動停止します。

※船べり停止後は、ジョグパワーレバー操作にてカウンター **0.0** mまでは巻き上げますが、カウンター **0.0** m後は、誤操作による竿巻き込み防止のためジョグパワーレバーでは巻き上げしません。



- ・新しい糸を巻いたときや、大物を掛けたときは糸の伸びにより船べり停止位置がずれることがあります。そのときは再度水面0セットを行なってください。
- ・船のゆれやオモリの号数によっては、停止位置が多少オーバーランすることがあります。その時は、設定値を増加させてご使用ください。
- ・水深100m以上で負荷の変動が大きい時は、停止位置のズレにより仕掛けを巻き込み、ロッドを破損する恐れがあります。このような釣りの際は、船べり停止位置を余裕を持って設定してください。

●道糸が切れてしまったら

- ・道糸が切れてしまった場合、糸切れ修正を行なってください。
切れたライン分のラインデータを修正します。通電状態のまま竿先まで巻き上げ、
RESET スwitchを2秒以上押してください。表示が **0.0** になれば完了です。
- ※上記の作業によってラインデータが上書き（修正）されます。
- ※糸切れした場合のデータ修正以外は、カウンター誤差の原因になりますので、
RESET スwitchの長押しはしないでください。

機能設定の基本操作「5.船べり停止」

●えらべる船べり自動停止

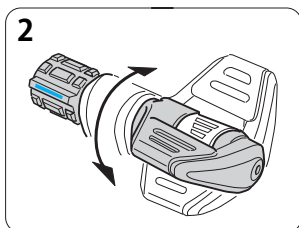
船べり停止位置が思いのまま、さらに手返しラクラク。

- えらべる船べり自動停止は、**RESET** スイッチ を押した位置より1m～5mの範囲内で船べり停止位置を任意を選んでセットすることができます。（10cm単位）
特にコマセ釣りの場合は、船べり停止し、ロッドを立てればビシが手元にくるよう、えらべる船べり自動停止位置をセットすれば手返しに大変便利です。
ただし、安全のため船べり停止位置は1m未満には設定できないようになっています。
- 糸ののびにより船べり自動停止位置が下にズれてくるように感じる場合があります。そのときは、再度、水面ゼロ設定をやり直してください。
- 船べり停止位置付近では、安全のためジョグパワーレバーでの操作がきかない場合があります。

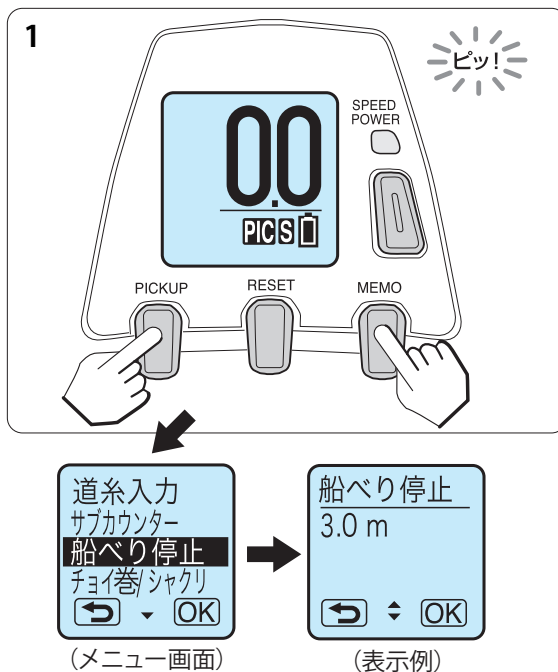
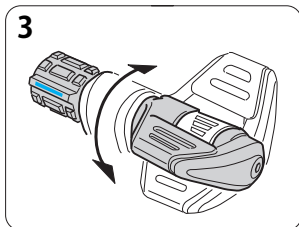
えらべる船べり自動停止は、メニュー画面から設定する方法と水深画面で設定する方法の2種類のやり方があります。

●メニュー画面から設定する方法

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。
2. ジョグパワーレバーで「船べり停止」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



3. ジョグパワーレバーで任意の船べり停止位置を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押して水深画面へ戻ります。



※水面ゼロ設定をしていない場合は、えらべる船べり自動停止は設定できません。先に水深ゼロ設定を行なってください。

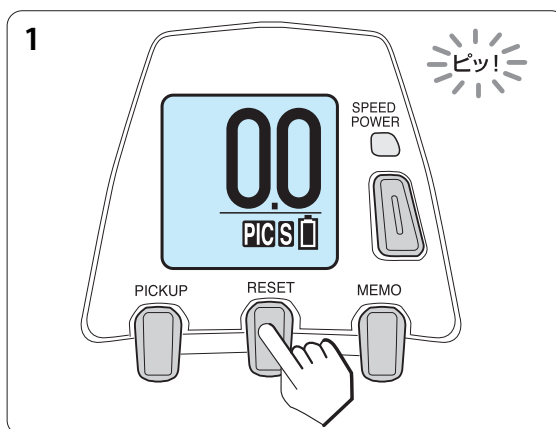
4. 仕掛けを投入して、電動巻上を行なうと、設定した位置で自動停止するようになります。

機能設定の基本操作「5.船べり停止」

●水深画面から設定する方法

1. リールを通电し、水面に仕掛けがある時に **RESET** スイッチを押します。
(水面ゼロ設定)

表示が **0.0** mになります。

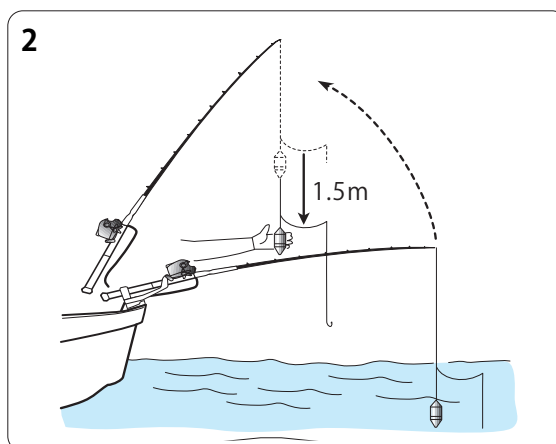


2. ロッドを立てて、仕掛けの取りやすい位置や、取り込みのしやすい位置まで糸を出します。

図の場合は1.5m

便利

コマセ釣りの場合
・竿を立てたときビシがちょうど手元にくるように設定すれば、手返しに大変便利です。



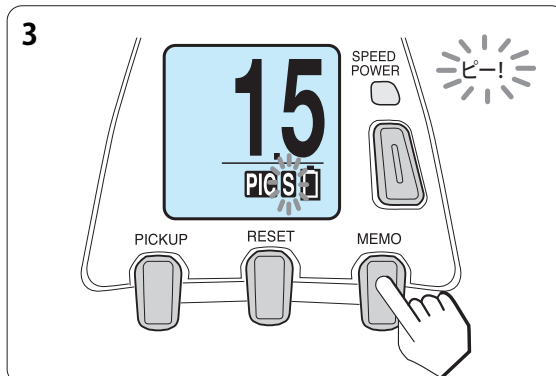
3. その位置で **MEMO** スイッチを約2秒間押し続けます。

Ⓢ(船止) が点滅すれば、セット完了です。

※船べり自動停止の初期設定は2.0mです。

(**RESET** スイッチを押さない場合は、5.0mで止まります。)

※設定が完了すると、Ⓢ(船止) ランプが点滅します。



4. 仕掛けを回収する時は、設定値で自動で電動巻上げを停止しますので、ロッドを立てれば仕掛けが手元に来ます。

機能設定の基本操作「6.チョイ巻き/チョイ止め」

●チョイ巻き

PICKUP スイッチ を押している間だけ電動リールに巻取りをさせることができる便利な機能です。チョイ巻きの速さは初期設定では15ですが、メニュー画面で変更することができます。

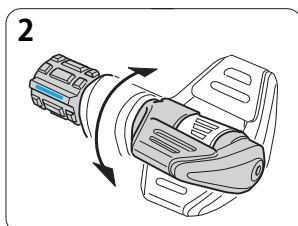
●チョイ止め

電動巻上げをしている時、PICKUP スイッチを押している間だけ電動巻上げを止めることができる便利な機能です。スイッチを放せばジョグパワーレバーの位置の速度で巻上げを始めます。

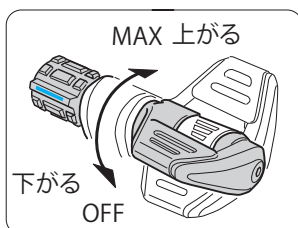
●チョイ巻き/チョイ止め設定方法

1. MEMO スイッチ と PICKUP スイッチ を同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「チョイ巻/シャクリ」を選択し **OK** (MEMO スイッチ) を押し、さらにジョグパワーレバーで「チョイ巻」を選択し **OK** (MEMO スイッチ) を押します。

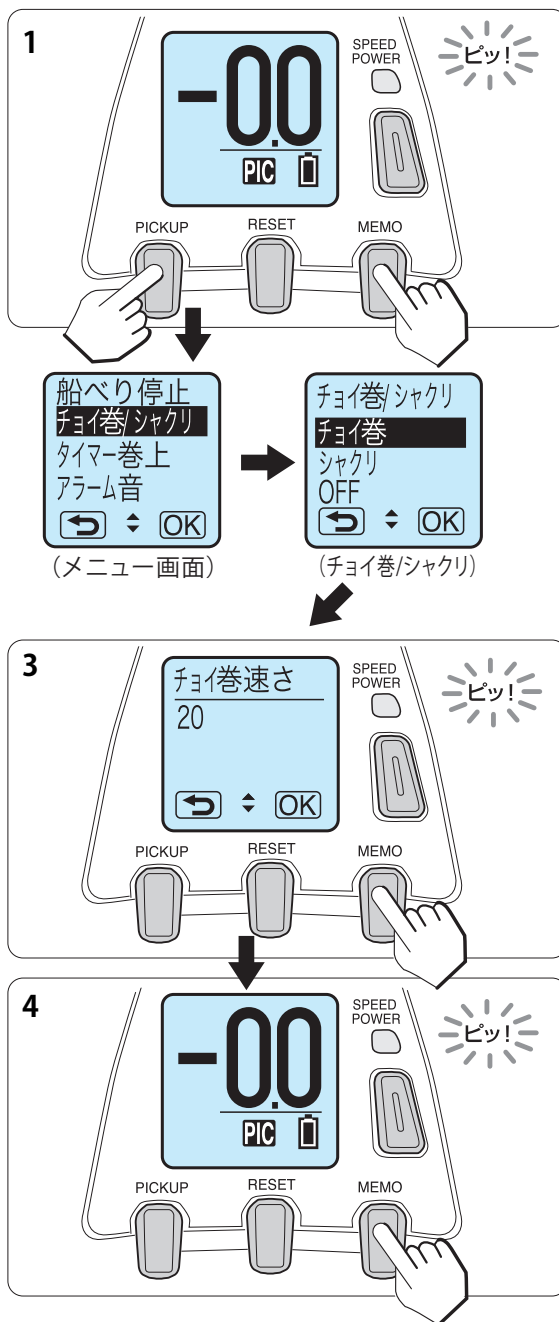


3. ジョグパワーレバーでスピードを設定します。



設定値は0～Hiまでです。(図は20に設定した場合)
1～Hiにセットするとチョイ巻き、0にセットするとチョイ止めになります。

4. **OK** (MEMO スイッチ) を押し、水深画面に戻せばセット完了です。



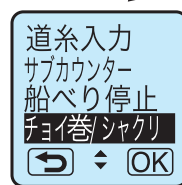
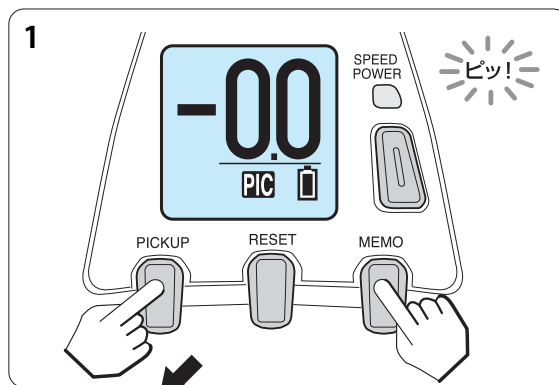
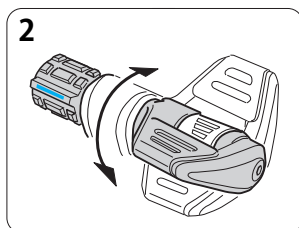
機能設定の基本操作「7.シャクリ」

●シャクリ

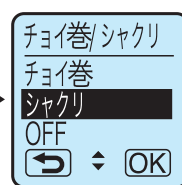
電動リールにシャクリ（さそい）をさせる便利な機能です。設定後、**PICKUP** スイッチを押せばシャクリがスタートします。シャクリの速さはジョグパワーレバーで調整できます。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

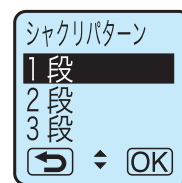
2. ジョグパワーレバーで「チョイ巻/シャクリ」を選択し **OK**（**MEMO** スイッチ）を押し、さらにジョグパワーレバーで「シャクリ」を選択し **OK**（**MEMO** スイッチ）を押します。



(メニュー画面)



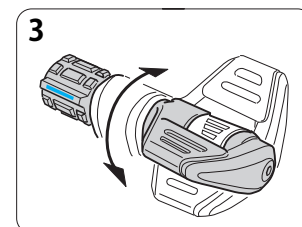
(チョイ巻/シャクリ)



(シャクリパターン)

3. ジョグパワーレバーで「シャクリパターン」を選択し **OK**（**MEMO** スイッチ）を押します。

1回のシャクリの長さを「何段」でシャクリをさせるかが選べます。



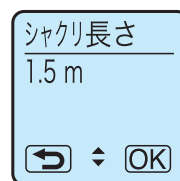
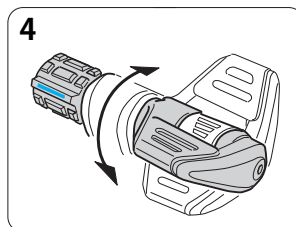
1 段シャクリ	2 段シャクリ	3 段シャクリ	ランダムシャクリ
			ランダムシャクリとは、1～3段のシャクリを1Cがひとシャクリごとに自動選択して誘い続けるシステム。まさに変幻自在のシャクリ機構です。

※図は竿でシャクリを表していますが、実際にはリールが巻き上げてシャクリをします。

機能設定の基本操作「7.シャクリ」

4. ジョグパワーレバーでシャクリの長さを設定し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

1回のシャクリの「長さ」を選べます。(オモリの号数や、シャクリのスピードによっては、多少長さがオーバーランすることがあります)

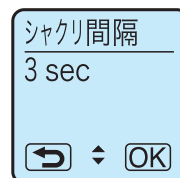
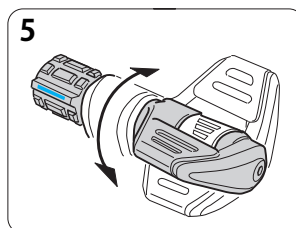
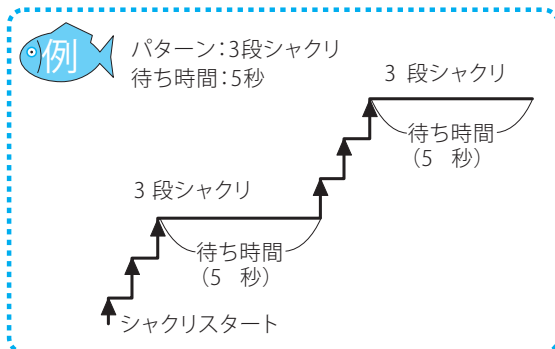


(表示例)



5. ジョグパワーレバーでシャクリ間隔を設定し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

シャクリとシャクリの「間隔(待ち時間)」を選べます。



(表示例)



注意

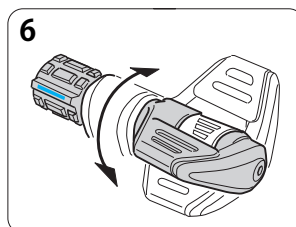
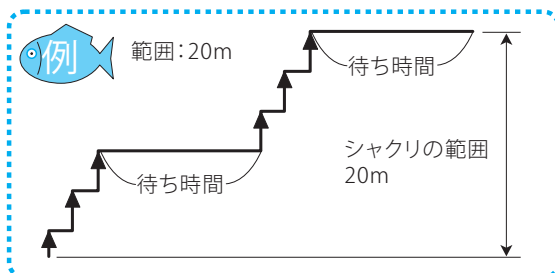
・「シャクリ」の「秒数」より「コマセタイマー巻き上げ時間」の設定が短いときは、「コマセタイマー巻き上げ時間」を優先させて作動します。

6. ジョグパワーレバーでシャクリ範囲を設定し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押し、水深画面へ戻りセット完了です。

シャクリの「範囲」を選べます。

※範囲をOFFに設定した場合は、船べり停止位置までシャクリを行います。

※範囲を設定した場合は、その間だけシャクリを行います。



(表示例)



機能設定の基本操作「7.シャクリ」

7.仕掛け投入後、

PICKUP スイッチ を押してジョグパワーレバーで速度を設定すると、シャクリがスタートします。

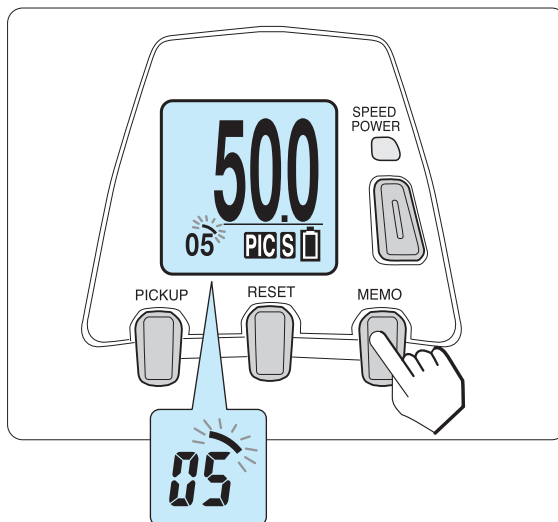
- ・ 巻上げ中は **JIG** (シャクリ) が点滅します。
- ・ シャクリの速さはパワーレバーで調整してください。
- ・ シャクリ中に **PICKUP** スイッチ を押すとシャクリが止まります。

機能設定の基本操作「8.コマセタイマー」

●コマセタイマー

毎回、仕掛け投入経過時間をズバリ表示。手返しペースを作るのにとっても便利。

- 仕掛け投入開始からの経過時間を表示します。コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを測る目安になります。
- コマセタイマーは **MEMO** スイッチ が押されていないときは、水面カウンタ7.0mよりオートスタートします。



※1分以内は秒単位、1分以上は分単位で表示されます。

※タイマー機能は解除できません。



- 途中で **MEMO** スイッチ を押した場合は、タイマー表示が **0** からスタートします。

機能設定の基本操作「9.タイマー巻上」

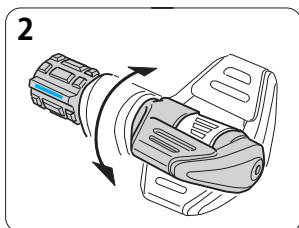
●コマセタイマー巻上

初心者もプロの手返し！待ち時間をセットすればリールが自動で巻上げてくれるから、より効率の良い釣りが簡単にできます。

- 1回の投入の待ち時間を5分とリールに設定すれば、タイマーがスタートした時点より5分たてば、自動的にリールが手返しのため高速で仕掛けを巻き上げます。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

2. ジョグパワーレバーで「タイマー巻上」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



3. ジョグパワーレバー操作で手返しの待ち時間（分）を選択します。

レバーを上げると数値が上がり、手前に引くと数値が下がります。

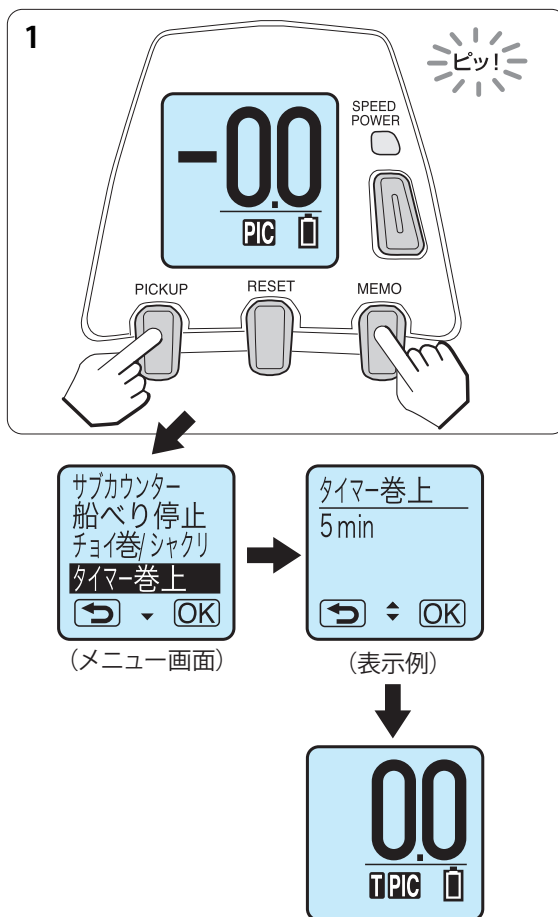
(図は待ち時間を5分にセットした場合です。)

4. **OK** (**MEMO** スイッチ) を押して、水深画面に戻ったらセット完了です。

画面に **T** (タイマー) が点灯します。

5. 仕掛け投入後、クラッチをONにした状態で、設定した時間がくると、自動的にMAXスピードで仕掛けを巻き上げます。

- 巻き上げ前にアラームが鳴ってお知らせします。
- クラッチがOFFの場合は、自動巻上は行ないません。
- タイマーは仕掛け投入7.0mより自動スタートしますが、**MEMO** スイッチを押すことで、一旦リセットし、再スタートさせることができます。



機能設定の基本操作「10.水深補正」

●水深補正

カウンターの表示が糸色に対してズレてきた時、糸色に合わせてカウンター表示を補正することができます。

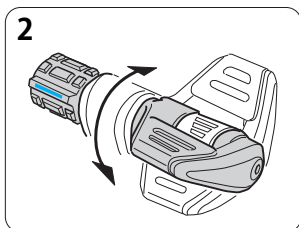
便利

実釣中にカウンターを補正することができます！

(例) 糸色ではちょうど100mに対しカウンターの表示を103mから糸色100mに合わせ補正する場合。

- 1.補正したい水深が表示された状態で、**MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。

- 2.ジョグパワーレバーで「水深補正」を選択し**OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

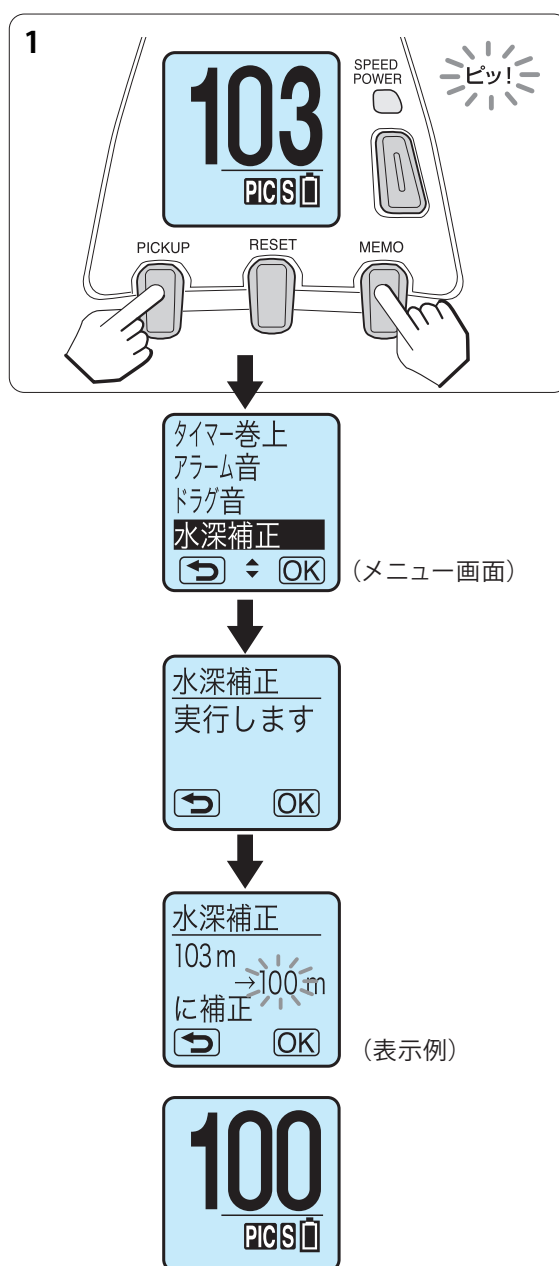


※《実行しますか?》が流れ文字として表示されるので、再び **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。

※水深が10.0m未満の時は補正は行なえません。

- 3.ジョグパワーレバーで希望の水深を選択し、**OK** (**MEMO** スイッチ) を押して水深画面に戻ります。

- 4.水深が補正されました。

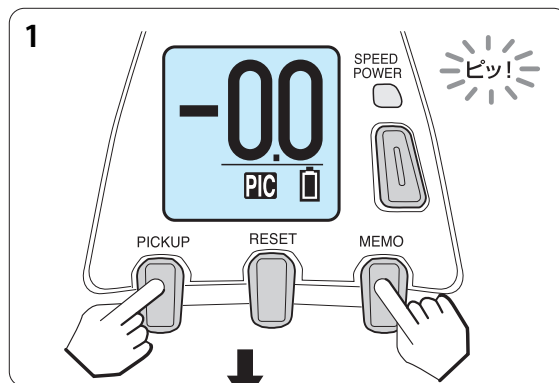
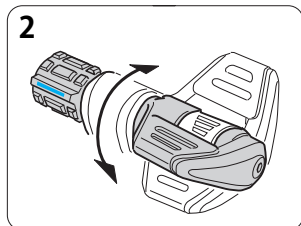


機能設定の基本操作「11.実釣来歴」

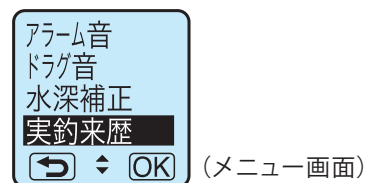
● 実釣来歴

電動リールの総巻上距離と総使用時間を確認できます。
※表示値には多少誤差が生じることがあります。

1. **MEMO** スイッチと **PICKUP** スイッチを同時に2秒間押してメニュー画面にしてください。



2. ジョグパワーレバーで「実釣来歴」を選択し **OK** (**MEMO** スイッチ) を押します。



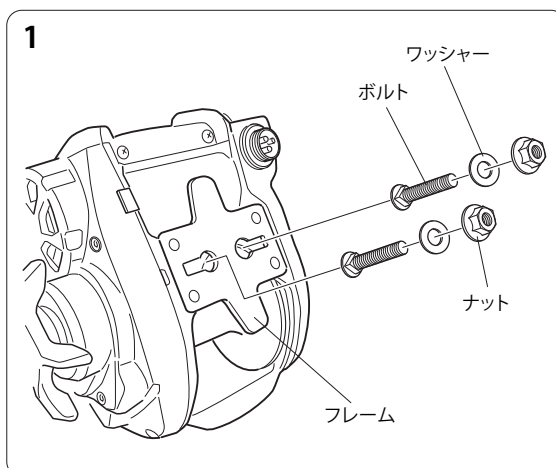
3. 総巻上距離と総使用時間が確認できます。
OK (**MEMO** スイッチ) を押すと水深画面に戻ります。



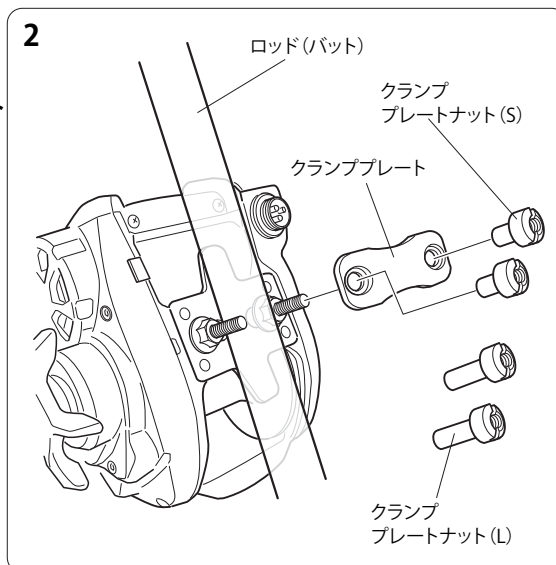
機能設定の基本操作「12.ロッドクランプ装着方法」

金属バットへの装着や、負荷の大きい釣りの場合は、必ずロッドクランプをご使用ください。
(※ロッドクランプは、バットの直径が18～34mmの太さまで取付け可能です。)

1. フレームの取り付け穴にボルトを差し込み、ワッシャー、ナットを取り付けて固定します。



2. リールをロッドにセットし、ロッドをはさみ込むようにロッドの下からクランププレートをあて、バット径に応じてクランププレートナット(S)または(L)を取り付けて固定します。

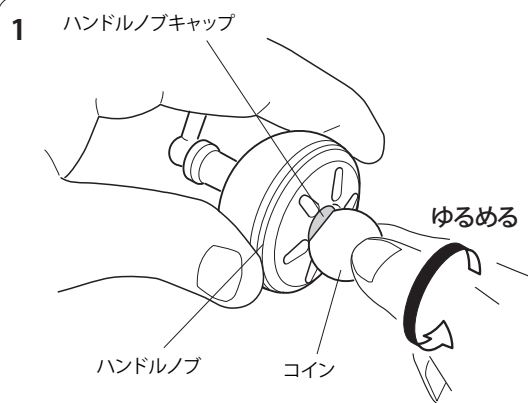


- ロッドのリールシート部が樹脂の場合、ナットを強く締め込み過ぎますとリールシート部が破損する恐れがあります。
- ボルトのみ取り付けただけで釣りをされますと、ネジ部で手を切る恐れがありますのでおやめください。

機能設定の基本操作「13.ハンドルノブの取り外し方」

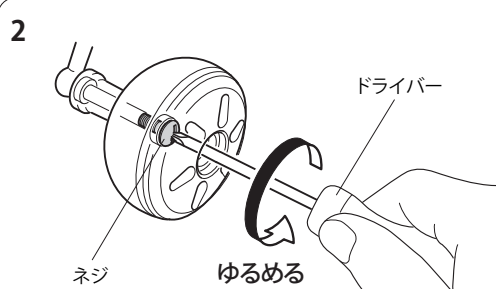
1.ハンドルノブを手で押えながらコインでハンドルノブキャップをゆるめて外します。

※ハンドルノブキャップにコインをしっかりとみ合わせて回さないと、ハンドルノブキャップが傷付いてしまいますのでご注意ください。

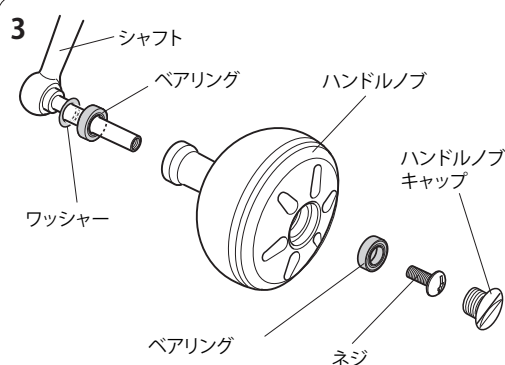


2.ドライバーでノブ内部のスクリューをゆるめて外します。

※スクリューには、ゆるみ止め防止剤が付いていて、ゆるみにくくなっています。ネジ山を傷めないようにご注意ください。



3. 部品構成は図のようになります。



機能設定の基本操作「14.その他の便利機能」

●いろいろアラーム

船べり、棚メモリー…さまざまな情報を音でお知らせ、いろいろなアラーム。



ジョグパワーレバーアラーム

- ジョグパワーレバーのMAXの位置と、OFFの位置をアラーム音でお知らせします。

船べりお知らせアラーム

- 巻上げ中、船べり停止6m手前より2m間隔でピッ、船べり停止位置でピーッと鳴り仕掛けが船べりにだんだん近付いて来るのをお知らせします。

棚メモリーお知らせアラーム

- 仕掛け投入中、メモリーした棚の6m手前より2m間隔でピッ、メモリーした棚ではピーッと鳴り、メモリーした棚にだんだん近付いて行くのをお知らせします。

※棚さぐり時に頻繁にアラームが鳴らないように棚メモリーお知らせアラームはメモリーした棚

より6m以上巻上げてから、再度糸を出さないと鳴らないようになっています。

スイッチアラーム

- 各スイッチを押すと、アラーム(ピッ)が鳴り、スイッチが確実に押されたことを音で確かめられます。(メニュー設定によりOFFにすることもできます。)

過電圧警告アラーム

- 電源電圧がリールの使用可能範囲より高いとき、連続アラーム音を発し、警告します。ただちにその電源の使用をおやめください。

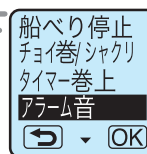
タイマー巻上げお知らせアラーム

- コマセタイマー巻上げ前にアラームにてお知らせします。

●アラームON・OFF選択

アラーム音を設定により消すことができます。

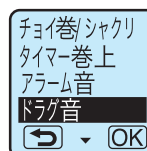
- 初期設定はONになっています。
 - アラームをOFFにすると、スイッチ操作やジョグパワーレバーを操作してもアラーム音は出ません。
- メニュー画面でアラームON・OFF画面にしてください。
 - ジョグパワーレバーを操作してOFFにしてください。
 - OK** (MEMO スイッチ) を押して水深画面に戻ったらセット完了です。



●ドラッグ音ON・OFF選択

ドラッグ音を設定により消すことができます。

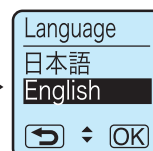
- 初期設定はONになっています。
 - ドラッグ音をOFFにするとドラッグが引き出されても電子音が出なくなります。
- メニュー画面でドラッグON・OFF画面にしてください。
 - ジョグパワーレバーを操作してOFFにしてください。
 - OK** (MEMO スイッチ) を押して水深画面に戻ったらセット完了です。



●Language (言語) 選択

液晶画面に表示される言語を日本語/英語から選択できます。

- メニュー画面でLanguage画面にしてください。
- ジョグパワーレバーで希望の言語を選択してください。
- OK** (MEMO スイッチ) を押して水深画面に戻ったらセット完了です。

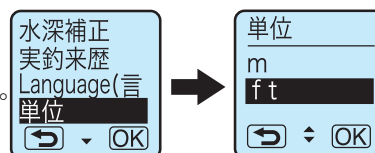


機能設定の基本操作「14.その他の便利機能」

●単位選択

液晶画面に表示される数値の単位をm(メートル)/ft(フィート)から選択できます。
※ただし、ft(フィート)表示に設定した場合でも道糸入力時に限り、m(メートル)表示となります。

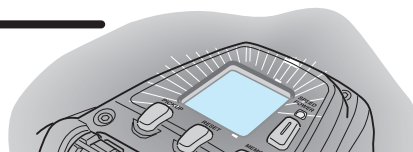
- 1.メニュー画面で単位画面にしてください。
- 2.ジョグパワーレバーで希望の単位を選択してください。
3. **OK** (**MEMO** スイッチ)を押して水深画面に戻ったらセット完了です。



●カウンターランプ

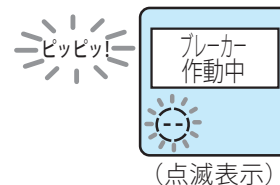
カウンター内のランプが常に点灯。

- 薄暗いところでもカウンターが見えるよう、通電中はいつもカウンター内のランプがついています。



●ブレーカー作動表示

- 安全に釣りをするため、リールに大きな負荷が加わるとブレーカーが作動し、15秒間電動巻上げを停止します。作動時は右図のような表示が出ます。



仕様一覧

●リール仕様一覧

シーボーグ1200MJ

製品コード			00801467
ギヤー比（手動時）			2.9:1
標準自重 (g)			2,000
最大ドラグ力 (kg)			33
標準巻糸量 (m) ※ブライトとは、当社棚センサー ブライト (PE) のことです。	ブライト （号）	6	1,300
		8	1,000
		10	800
		12	600
	ナイロン （号）	12	800
		14	650
		16	550
ボールベアリング入数			22
電源電圧			DC12V～16.8V
最大巻上力 ※1 (Kg)			622
常用巻上速度 (1kg負荷時) ※2 (m/分)			Hi:140 / Lo:60
JAFS基準巻上力 ※3 (Kg)			48
JAFS基準巻上速度 ※3 (m/分)			Hi:170 / Lo:70
電流 (A)	無負荷時		4
	定格		Hi:7 / Lo:5
	最大		20
変速機能	無負荷時		0～170 m/分（無段階変速）
最適バッテリー			ダイワスーパーリチウムシリーズ ダイワタフバッテリーシリーズ

※1:最大巻上力＝電源電圧13 V、軸トルクによる参考値。(Kg=Kgf・cm)

※2:常用巻上速度＝電源電圧13 V、1kg負荷時の100m巻上げ速度の平均。

※3:JAFS基準巻上力/巻上速度＝日本釣用品工業会規程、電源電圧13 Vにおける測定値。

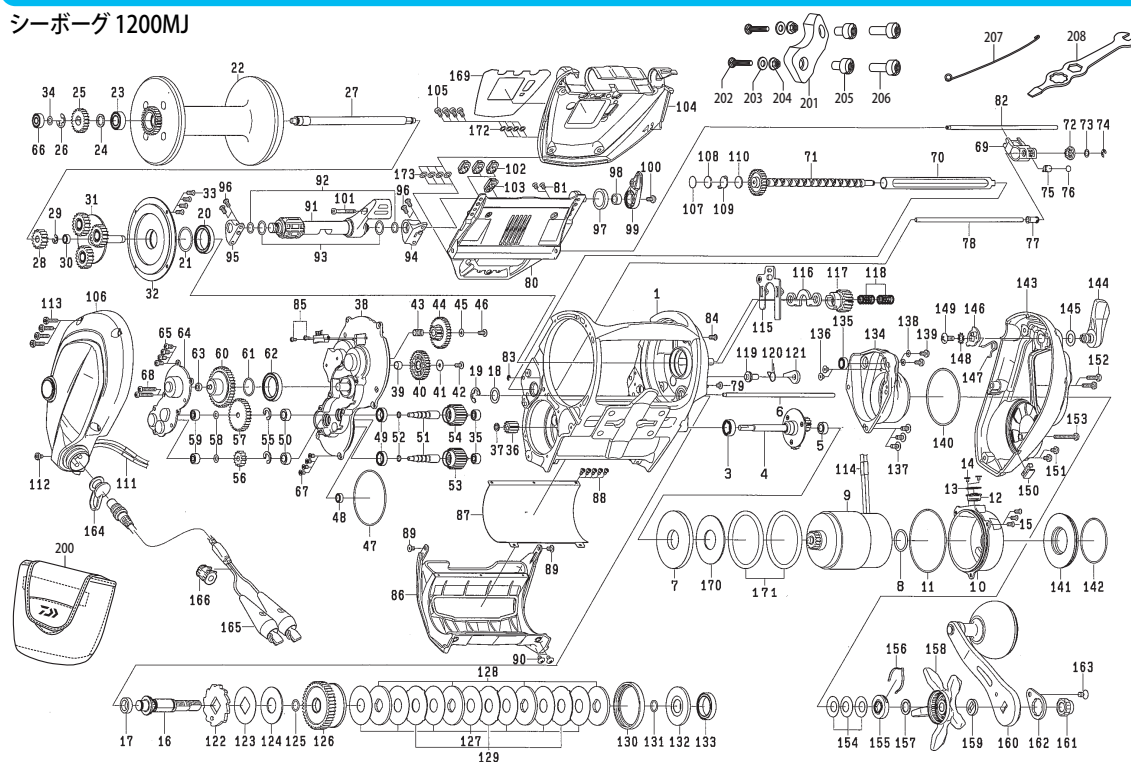
●カウンター部仕様

水深表示範囲	上のカウンター:0.0～3000 m 下のカウンター:－3000～3000 m
使用可能温度	－10℃～60℃

※改良のため、仕様を予告なく変更することがあります。

展開図

シーボグ 1200MJ



No.	部品名	No.	部品名	No.	部品名	No.	部品名
1	フレーム	47	セツプ ^ア レートリング ^ア	92	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - オリング ^ア	137	RSカバ ^ー - SC(A)
3	モーター ^キ ア(B)ホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	48	セツプ ^ア レートホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	93	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - W	138	RSカバ ^ー - SC(B)W
4	モーター ^キ ア(A)	49	モーター ^キ アシャフトホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	94	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - ホルダ ^ー - (R)	139	RSカバ ^ー - SC(B)
5	モーター ^キ ア(A)ホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	50	セツプ ^ア レート ^キ アホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	95	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - ホルダ ^ー - (L)	140	RSカバ ^ー - オリング ^ア
6	ラインガード ホ ^ー スト	51	モーター ^キ アシャフト	96	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - ホルダ ^ー - SC	141	モーター ^キ ホルダ ^ー - ア ^ー レート
7	モーター ^キ アシャフト	52	モーター ^キ アシャフトオリング ^ア	97	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - リソグ ^ア	142	モーター ^キ ホルダ ^ー - ア ^ー レートオリング ^ア
8	モーター ^キ オリング ^ア (A)	53	モーター ^キ ア(HI)	98	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - カラー	143	RS ^ア レート
9	モーター	54	モーター ^キ ア(LOW)	99	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - (B)	144	クラッチレバ ^ー -
10	モーター ^キ ホルダ ^ー -	55	モーター ^キ アシャフトリテイナ ^ー	100	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - (B)SC	145	クラッチレバ ^ー - W
11	モーター ^キ ホルダ ^ー - オリング ^ア	56	アイド ^ル ルギ ^ア (C)	101	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - SC	146	クラッチカム
12	モーター ^キ ホルダ ^ー - パ ^ー ツキン	57	アイド ^ル ルギ ^ア (D)	102	ア ^ー ツキ ^ア タン	147	クラッチカムSP
13	モーター ^キ ホルダ ^ー - パ ^ー ツキンW	58	アイド ^ル ルギ ^ア W	103	シフトスイッチ ^ア タン	148	クラッチカムW
14	モーター ^キ ホルダ ^ー - パ ^ー ツキンSC	59	アイド ^ル ルギ ^ア アホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	104	ICモジ ^ア ユルカバ ^ー -	149	クラッチカムSC
15	モーター ^キ ホルダ ^ー - SC	60	アイド ^ル ルギ ^ア (E)	105	ICモジ ^ア ユルカバ ^ー - SC	150	ラインストップ ^ア -
16	ギ ^ア アシャフト	61	アイド ^ル ルギ ^ア ア(E)オリング ^ア	106	LS ^ア レート	151	RS ^ア レートSC(A)
17	ギ ^ア アシャフトカラー	62	アイド ^ル ルギ ^ア (E)ホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	107	メカニカル ^ア レキノ ^ア W(A)	152	RS ^ア レートSC(B)
18	ギ ^ア アシャフトW	63	アイド ^ル ルギ ^ア (E)カラー	108	メカニカル ^ア レキノ ^ア W(B)	153	RS ^ア レートSC(C)
19	ギ ^ア アシャフトリテイナ ^ー	64	セツプ ^ア レート(B)	109	メカニカル ^ア レキノ ^ア W(C)	154	ド ^ラ グ ^ア SP・W
20	ス ^プ - ルギ ^ア レートホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	65	セツプ ^ア レート(B)SC	110	メカニカル ^ア レキノ ^ア W(D)	155	ド ^ラ グ ^ア ホルダ ^ー -
21	ス ^プ - ルギ ^ア レートW	66	ス ^プ - ルギ ^ア アシャフトホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア (B)	111	コード ^ア カバ ^ー -	156	ド ^ラ グ ^ア ホルダ ^ー - リ ^ア - FSP
22	ス ^プ - ル	67	セツプ ^ア レートSC(A)	112	LS ^ア レートSC(A)	157	ハンド ^ル W
23	ス ^プ - ルギ ^ア アシャフトホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア (A)	68	セツプ ^ア レートSC(B)	113	LS ^ア レートSC(B)	158	スター ^ア ラグ ^ア
24	ス ^プ - ルギ ^ア アシャフトW	69	レバ ^ー ルギ ^ア イント	114	コード ^ア カバ ^ー -	159	ハンド ^ル カラー
25	ス ^プ - ルギ ^ア アシャフト ^キ ア(B)	70	ウ ^ォ ム ^ア ショルト ^ア	115	スライド ^ア プ ^ア レート	160	ハンド ^ル
26	ス ^プ - ルギ ^ア アシャフト ^キ アリテイナ ^ー	71	ウ ^ォ ム ^ア ショフト	116	クラッチ ^ア プ ^ア レート	161	ハンド ^ル ナット
27	ス ^プ - ルギ ^ア アシャフト	72	ウ ^ォ ム ^ア ショフトカラー	117	ビ ^ア ニオン	162	ハンド ^ル ロック ^ア プ ^ア レート
28	ス ^プ - ルギ ^ア アシャフト ^キ ア(A)	73	ウ ^ォ ム ^ア ショフトW	118	クラッチ ^ア プ ^ア レートSP	163	ハンド ^ル ロック ^ア プ ^ア レートSC
29	ス ^プ - ルギ ^ア アシャフト ^キ ア(A)リテイナ ^ー	74	ウ ^ォ ム ^ア ショフトリテイナ ^ー	119	ストッパ ^ー - ビ ^ア ン	164	コネクタ ^ー キャップ
30	ス ^プ - ルギ ^ア アホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	75	ホ ^ー - ル	120	ストッパ ^ー - SP	165	コード ^ア
31	ス ^プ - ルギ ^ア ア	76	ホ ^ー - ルW	121	ストッパ ^ー -	166	フ ^ラ イトコ ^ア
32	ス ^プ - ルギ ^ア プ ^ア レート	77	レバ ^ー ルギ ^ア イント ^ア ホ ^ー ストカラー	122	ラ ^ア チエット	169	ICモジ ^ア ユルカバ ^ー - プ ^ア レート
33	ス ^プ - ルギ ^ア プ ^ア レートSC	78	レバ ^ー ルギ ^ア イント ^ア ホ ^ー スト	123	ラ ^ア チエットW	170	モーター ^キ W
34	ス ^プ - ルギ ^ア プ ^ア レートW	79	レバ ^ー ルギ ^ア イント ^ア ホ ^ー ストSC	124	ド ^ラ イブ ^ア キ ^ア W	171	モーター ^キ オリング ^ア (B)
35	モーター ^キ アホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	80	ICモジ ^ア ユル	125	ギ ^ア アシャフトオリング ^ア	172	ICモジ ^ア ユルカバ ^ー - W(A)
36	モーター ^キ ア(B)	81	ICモジ ^ア ユルSC	126	ド ^ラ イブ ^ア キ ^ア	173	ICモジ ^ア ユルカバ ^ー - W(B)
37	モーター ^キ ア(B)W	82	ICモジ ^ア ユルホ ^ー スト	127	ド ^ラ グ ^ア W	200	ネ ^ア プ ^ア レンリ ^ア ルカ ^ア ス
38	セツプ ^ア レート(A)	83	ICモジ ^ア ユルホ ^ー ストリテイナ ^ー	128	ド ^ラ グ ^ア ティスクW	201	クランプ ^ア プ ^ア レート
39	アイド ^ル ルギ ^ア (A)カラー	84	センサ ^ー - SC(A)	129	ド ^ラ グ ^ア リッパ ^ー W	202	クランプ ^ア SC
40	アイド ^ル ルギ ^ア (A)	85	センサ ^ー - SC(B)	130	ド ^ラ グ ^ア パ ^ー ツキン	203	クランプ ^ア SC・W
41	アイド ^ル ルギ ^ア (A)W	86	フィンガ ^ー - カバ ^ー -	131	ド ^ラ グ ^ア オリング ^ア	204	クランプ ^ア SCナット
42	アイド ^ル ルギ ^ア (A)SC	87	ラインガ ^ー - ド	132	ド ^ラ グ ^ア カラー	205	クランプ ^ア プ ^ア レートナット(ショ ^ー ト)
43	アイド ^ル ルギ ^ア (B)カラー	88	ラインガ ^ー - ド SC	133	ハンド ^ル ホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	206	クランプ ^ア プ ^ア レートナット(ロング ^ア)
44	アイド ^ル ルギ ^ア (B)	89	フィンガ ^ー - カバ ^ー - SC(A)	134	RSカバ ^ー -	207	イト ^ア オシ ^ア ビ ^ア ン
45	アイド ^ル ルギ ^ア (B)W	90	フィンガ ^ー - カバ ^ー - SC(B)	135	RSカバ ^ー - ホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア	208	ド ^ラ イバ ^ー -
46	アイド ^ル ルギ ^ア (B)SC	91	ジ ョグ ^バ ワーレバ ^ー - (A)	136	RSカバ ^ー - ホ ^ー - ルベ ^ー アリソグ ^ア SC		

※調整、その他により、展開図、部品表内容が製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

故障かな?と考える前に

症 状	考えられる原因	処 置	参 照 ページ
パワーレバーを操作しても、モーターが回転しない。	・船べり停止後、そのまま巻き続けカウンター表示が 0.0 m になっています。	・正常です。(巻込み防止のため手動以外作動しないようにしてあります)。	P30
	・レバーを1度OFFの位置に戻していません。	・1度レバーをOFFの位置に戻して巻上げを開始してください。	P13
	・安定しない船の電源を使用しています。	・船電源は不安定で、正常に作動しないことがあります。電動リール専用バッテリーをご使用ください。	P9
カウンターがつかない。	・バッテリーの残量切れです。	・バッテリーを再充電してご使用ください。	P9
	・コードの断線です。	・コードを新品と交換してください。	P11
	・バッテリーと + 、 - が正しく接続されていません。	・ + 、 - の逆接なく、確実に接続し直してください。	P8
船べり停止位置がおかしい。	・仕掛けセットしたとき、 RESET スイッチを押していません。	・仕掛けをセットした後は必ず水面ゼロ設定をしてください。	P30
	・オモリの号数や船のゆれによって多少ズレることがあります。	・えらべる船べり停止の設定値を調整してください。	P31
	・糸がのびて水面ゼロ設定点が下にズレてしまっています。	・水面ゼロ設定を再度行ってください。	P30
カウンター表示に誤差が多い。	・使用中に道糸がのびることがあり、カウンター表示と色糸との間に差が生じることがあります。	・再度、道糸データを入力してください。	P17~26
		・水深補正をしてください。	P39
	・実釣中、電源が消えた時に糸を巻いてしまった。	・再度、道糸データを入力してください。	P17~26
	・糸を出している時に、 RESET スイッチを長押ししてしまった。	・再度、道糸データを入力してください。	
チョイ巻きスイッチを押しても巻けない。	・速度設定が0になっています。	・メニュー画面で速度を設定してください。	P33
	・船べり停止位置+3m以内です。	・安全のためその範囲では巻けない設定となっています。	P33
シャクリスイッチを押してもシャクリしない。	・ジョグパワーレバーがOFFになっています。	・ジョグパワーレバーでシャクリの速さを決めてください。	P34~36
	・チョイ巻き設定になっています。	・メニュー画面でシャクリの設定をしてください。	

※上記の点検が行なわれてもなお、正常に戻らない場合、およびほかの故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際は、お買い求めの販売店、または取説裏面に記載されたお客様センターにおたずねください。

アフターサービスについて

本製品は当社の厳重な検査を経て出荷されたものですが、万一、故障が生じ修理が必要な場合、あるいは部品御注文の際は買い求めの販売店、または下記のお客様センターまでお問い合わせください。なお、修理品は部品代のほか手数料をいただきますのでご了承ください。

お客様センター（無料） 携帯電話からご利用できます

TEL **0120-506-204**

受付時間：9:00～17:00 （土・日・祝祭日は除く）

ホームページ上からもご確認、お問い合わせできます

www.daiwa.com/jp/

グローブライド株式会社

〒203-8511 東京都東久留米市前沢3-14-16